霊界戦争
EP.
8
世界卍リベンジャーズ
与国 秀真
YOKUNI Hotsuma

人が地の表に増え始めて、
娘たちが彼らに生れた時、
神の子たちは人の娘たちの美しいのを見て、
自分の好む者を妻にめとった。

その頃、
またその後にも、地に
ネフィリム（ネピリム）がいた。

『旧約聖書』創世記6章

不思議なことに
『旧約聖書』には
「ネフィリム」という
巨人について記されている。

ユダヤ人の先祖ダビデも、
「ゴリアテ」という
巨人と戦い、勝っている。

「ネフィリム」とは、
ヘブライ語では、
「天から堕ちてきた者たち」
という意味であり、

「堕天使・悪魔と
人間との間に生まれたとされる
超人的な存在」
とも考えられている。

「ネフィリム」をギリシャ語にすると
「ギガンテス（Gigantes）」となり、
これは『ドラゴンクエスト』などに
登場するモンスターでもお馴染みだが、

この「ギガンテス」を
英語にすると
「ジャイアンツ（Giants）」
となる、
つまり
『読売ジャイアンツ（巨人）』
の名前の由来は、
『聖書』の「ネフィリム」である。

巨人がいた証拠など、世界のどこにも無い！

かつては世界中で、たくさんの巨人の骨の目撃情報がありました。スミソニアン博物館は巨人の骨を隠している！

結局、私たちは世界に対して、まだ未知なことだらけだ。

そしてそれは、日本に対しても同様である。

あめのした
八紘を掩(おお)いて
宇(いえ)と為(な)さんこと
今から約二千七百年前、
神武天皇は日本を
建国された際、そう言われた。
これは
「全宇宙、全世界を一つの家とし、
生きとし生ける者を同胞、兄弟」
と考える精神である。

八紘一宇
はっこういちう
そしてこの精神は、明治期の田中智学という人物によって、「八紘一宇」という言葉でも言い表されるようになった。
建国の精神に、こうした崇高なる「平等思想」を持っているために、
実は日本ほど、民族や人種、異教徒に対して、「差別」を忌み嫌う国もない。

しかしこれまで他のエピソードで、
幾度も述べてきたように、
日本には今、「移民問題」が存在し、
日本の伝統と文化が
破壊されるのみならず、

中国共産党が行っている
「移民政策」によって、

国家存亡の危機にあり、

日本は一秒ごとに
滅びに向かっている。

だから
私たち日本人は、
「差別」と「区別」
そして
「移民の善悪」
について、
真剣に
考えなければ
ならない。
しかし建国の精神に、
「八紘を掩いて宇と為さんこと」
という平等精神を持っているので、
「日本人というのは
区別はしても、
民族や人種を差別しない」
ということを、
まず我々は、
徹底すべきだろう。

たとえば第二次世界大戦中、
日本が手を組んでしまった相手は、
「共産国家ソビエト連邦」
という共通の敵がいたことから、
独裁者ヒトラー率いる
ナチスだった。

そのために日本と
ナチス・ドイツが
「日独防共協定」というものを
結んだことは歴史的事実だ。

しかし日本とソ連の間で
「日ソ不可侵条約」が結ばれて、
「日本とソ連は戦争をしない」
という約束を交わすことで、
この「日独防共協定」は
意味を持たなくなる。

ナチスから日本政府に対して、再三にわたって「ユダヤ人取り締まり要請」があったが、

しかし「五相会議」という重要な会議の中で、板垣征四郎大臣はこう述べた。

神武天皇は建国の際、『八紘を掩いて宇となす』と述べられた。

特定の民族を差別することは、神武天皇以来の建国の精神に反する。

こうして日本政府は、「ナチスの非人道的なユダヤ人迫害には手は貸さない」ということを決定した。

しかも日本は上海で、ユダヤ人を保護した。

リトアニアの領事館に赴任していた杉原千畝が、ナチス・ドイツの迫害から逃れてきたユダヤ人たちに、「命のビザ」を発行して約6千人の命を救ったことは、かなり世界で知られている。
しかし実は、その3倍にもおよぶ2万人のユダヤ人の命を救った日本人がいたのだ。
それが樋口季一郎陸軍中将である。
樋口中将はソ連と満州の国境で、逃げ先を見失って、立ち往生していたユダヤ難民に対して、食料や燃料を配給するばかりか、満州国の通過を認めて、2万人の命を救ったのである。

この日本の行為に対して、ナチスは日本に対して、猛抗議してきた。

すると樋口中将は、上官にあたる東条英機参謀長に、堂々とこう述べた。

「ヒトラーのお先棒を担いで、弱い者いじめすることは

正しいと思われますか？

東条参謀長も
部下の非礼な発言を
まったく問題にせず、

むしろ
ドイツ側の抗議を
一蹴している。

我々は、
当然なる人道上の
配慮によって行った。

当時の日本は、
ナチスが行っている
非人道的なユダヤ人
迫害に加担せず、
むしろ国家をあげて、
ユダヤ人を保護した。

ユダヤ人を迫害する国は、
世界に多かれども、

ユダヤ人を
保護した国は、
世界で唯一、
日本だけである。

そしてたしかに
日本には今、
「移民問題」があり、
国家存亡の
危機はあるが、

パラオをはじめとする
諸外国における戦闘、

戦後のインドネシア
独立のための戦闘、
これらを見ても
分かるように、

まず我々は、

「日本は区別はしても
差別しない」

「日本人は
絶対に差別はしない」

ということを、
心に留めておくべきだろう。

そして次に、
日本人が抑えて
おかなければならない
重大な事実がある。
それは、
そもそも日本という国は、
「多民族国家」でありながらも、
和の心によって調和し、
文化と伝統を創造して、
日本という国を
築き上げてきたということだ。

先の大戦で日本が敗れた後、日本を占領したＧＨＱは、焚書を行った。
「焚書」とは、書物の焼却によって文化、歴史、宗教等の資料を破壊することで、思想の統一を図ることである。
たとえばかつて秦の始皇帝は、「焚書坑儒」という思想弾圧を行って思想の統一を図り、
４６０人以上の儒者を生き埋めにして処刑した。

同じように占領軍ＧＨＱも、
７０００冊以上もの
書物を焚書して、
思想弾圧を行って、
思想統一を図ったのだ。
DEMOCRACY
その焚書された書物の中には、
大山祇神社の宮司・
三島敦雄氏が記された、
『天孫人種二六千年史の研究』
という書物があった。
この書物は戦前の日本で、
１００万部近い
ベストセラーとなり、
陸軍士官学校の
課外読本にも採用された。

この抹殺された書物によれば、
「皇室および日本人の起源は、
シュメール文明にあり、
日本は古代において、
多民族国家であった」
ということが記されていた。
シュメール文明とは、
今から5000年前、
現在のイラクの地に
突如誕生した
「世界最古の高度文明」
と云われる謎の文明であり、
このシュメールこそ、
ユダヤ人が
「バビロン捕囚」で
連れ去られた
バビロニアの地でもある。

戦前の日本の
知識人たちの間では、

「日本は
神秘の国であり、
もともと
多民族国家であった」

ということは、
当然の常識だったのだ。

たとえば
第十五代応神天皇の時代、
儒教を日本にもたらした王仁(わに)は、
朝鮮半島の百済出身であるし、
あるいは
第五十代桓武天皇の
生母であられる高野新笠(たかののにいがさ)は、
百済の武寧王の子孫である。
つまり京都へと
遷都をおこなった
桓武天皇には、
まぎれもなく
百済の血が
入っていたわけだ。

あるいは奈良の大仏を
建立するにあたり、
大活躍をされた
仏教僧侶の行基菩薩も、
やはり百済に出自があった。

また日本中に
多くの神社を
建立した秦氏も、
やはり大陸からの
帰化人である。

今でも日本列島に大和民族、
北海道にはアイヌ民族、
沖縄には琉球民族がいるし、
かつて東北には蝦夷がいた。

「エミシ」と聞いても
分からないかもしれないが、
アニメ『もののけ姫』の
アシタカと言えば、
ご理解いただけるだろう。

一時期、
日本は韓国を併合し、
台湾を統治していた
時期もあった。

だから当時は、
朝鮮民族も、台湾民族も、
同じく日本人であった。

民族とは、
共通の文化、言語、歴史、
生活様式などを持った
集団のことであり、

また民族とは、
個人としての
「自分は何者か」という
アイデンティティーでもある。

そして日本において、
ルーツを遡れば、
様々な民族があれども、
それでも日本人は、

「和を以て貴しと為す」
という和の心でもって、
「日本民族」を、
築き上げてきたのだ。

そして次に、日本人が知っておかなければ、ならないことは、

貧しい国の人々の心の中には、「豊かな国で暮らしたい」という想いがあるということだ。

彼らは日本に来たいのだ。

この生活から抜け出したい…

たとえ…

どんなことをしてでも…！

たとえば
数年前に開催された
「東京オリンピック」で、
外国人が出場選手として
日本にやってきても、

母国の生活は
苦し過ぎる…

「日本で働きたい」
とメモを残して、
行方不明となるという
出来事があったが、

実はそうしたことは、
昔からずっと
起き続けている。

私たちにとっては見慣れた風景でも、世界の方々、
特に貧しい後進国の方々からすれば、
日本は今なお「夢の国」なのだ。
同じ人間として、その貧しい国の人々の気持ちは分かる。

しかし
もしも貧しい国の人々を
イギリスやドイツのように
すべて受け入れたら、

日本は犯罪が
激増するのみ
ならず、

伝統文化が
破壊されるの
みならず、

侵略の
意志を持つ
国家によって、

いずれ日本そのものが滅びる。

なぜなら
日本と世界の国々では、
教育レベルも、
道徳・倫理観も
大きく異なり、
あいうことあ

しかも世界はまだ、
戦国時代を
終えていないからだ。

エピソード3で述べたが、
たとえば日本とナイジェリアの
殺人事件の倍率は100倍以上、

犯罪件数にいたっては
1000倍だそうだ。

海外から日本に旅行に来て、一様に口を揃えて述べる感想がある。
ゴミが落ちていなく、こんなに街がキレイなんて、祖国では考えられない！

生まれて初めて、夜の街をイヤホンつけて、スマホ見ながら散歩した！
日本はなんでこんなに平和で安全なの？自分の国に帰るが、もう嫌になった！

日本人は皆、観光客に優しくてとても親切！

ちなみに外国の方々が、
口を揃えて、
日本に一番驚いているのは、
トイレのキレイさと充実である。

夜でも女性がイヤホンをつけて
ジョギングできる、

小学生が黄色い帽子をかぶって、
スクールバスや送り迎え無しに、
安心して登下校できる、

レストランに入って
荷物を椅子の下のカゴに
安心して置いておける、

夜中にお腹が空いたら
朝まで我慢することなく、
牛丼が食べられる、

自販機で真夜中でも
ジュースが買える、

こんな日本では、
ごくごく当たり前な光景でも、
実は世界からすれば異常であり、

それが今、
移民や不法難民によって、
少しずつ失われつつある。

たとえば名古屋市で、
朝の通勤途中の28歳の女性が、
外国人男性に襲われて、
女性の叫び声を聴いた通行人が
110番通報するという
恐ろしい事件が起きた。

やめて、嫌！

すでに他の
エピソードで述べたが、
「シャーリア法（イスラム法）」
の解釈は難しく、
レイプされた被害者女性が、
逆に罰せられた事例だってある。

なぜなら男尊女卑の思想が強い、
イスラム教では、
女性がレイプされた場合、
少なくとも4人の男性ムスリムの
証人が必要とされるからだ。

そうしたこともあってか、
カナダに住むイスラム系
タクシードライバーが、
女性客に対して、
信じられない発言をして、
世界中を驚かせた。

もしパキスタンにいたら、
あなたを誘拐して
レイプするだろう。
カナダにいるから、
それは出来ないけどね。

2021年8月14日、
パキスタンで
数百人の群衆の男たちが、
女性 TikToker を性的暴行する
事件が起こり、
126人が逮捕された。

彼らは私を裸にし、
性的暴行をしてきた。

そして遊び半分で
私を引っ張ったり
放り投げて、
この仕打ちは、
二時間半もの間続いた。

「性的テロ」と言える。

あまりにも文化・教育、
そして価値観に違いがあり過ぎるのだ。

それでも邪悪な金融エリートたちは、
意図的に世界中で、
「移民問題」を作って、

こうしている今現在も、
「グレー・トリセット」の発令中であるし、

中国共産党は、
明確に日本侵略の意志を持っている。

しかも腐敗した
日本の政治は、
彼らの思惑通りに、

安易な移民政策を
推し進めることで、
侵略を許している。

あらためて述べるが、
「自己資産2兆円」と言われる
世界最大の投資家
ジョージ・ソロスが設立した

国境は邪魔であり、
撤廃すべきだ。

『オープン・ソサエティ財団』こそ、
世界における移民問題の背後で
暗躍している。

埼玉県川口市の
クルド人問題にも、
NGO『JANIC（ジャニック）』
を援助することで、
『オープン・ソサエティ財団』
が陰から深く関わっている。

また、ブレジンスキーは、
『Replacement Migration
（代替移民）』
と題された国連報告書
の中で、こうも述べている。

日本は毎年、
数十万の移民を
受け入れるべきだ。

ソロスもブレジンスキーも、
彼らは共に
ユダヤ人を自称する者たちである。

エピソード5で述べたように、
もともとユダヤ教には、
「選民思想」がある。

アブラハムよ
我は汝の子孫に
カナンの地を与える

その「選民思想」はやがて、
『ヘーレム』という、
目的のためなら、
皆殺しも構わないと考える、
「聖絶思想」となり、

さらには「バビロン捕囚」以降、
『タルムード』の誕生によって、
異邦人のことを
「家畜」と見なす、
「家畜思想」が生み出された。

しかもユダヤ人の中には、
バアル信仰に傾いて、

「ルシファー」を神と考え、
悪魔教徒へと
堕落する者たちまで現れた。

こうして彼らの中に、
「悪魔的支配思想」が
誕生してしまった。

「選民思想」から「聖絶思想」へ、
そして「家畜思想」へ、
さらには「悪魔思想」へ○○○、
おびただしい迫害と苦難の中で、

こうした思想の変節を見れば、
「ヨハネの黙示録」が述べる、
「ユダヤ人を自称する悪魔教徒」
という言葉の意味が分かる。

なぜなら彼らは、
「悪魔思想」に基づいて、
あらゆる国々を破壊し、

あえて意図的に、
貧しい人々を
生み出しているからだ。

パレスチナ、イラク、
シリア、リビアなど、
中東のイスラム教国家を
破壊しまくり、

イスラム教徒が移民となり、
世界の国々に押しかけるよう
仕向けているのは、
彼ら悪魔教徒である。

また彼らは、
「移民推奨」の流れを
地球に築き上げることにも、
成功している。

ソロス財団から
多額の支援を受けている
ニューヨーク市長マムダニも、
こう述べている。

ニューヨークは今後も
移民の街であり続けます。
移民が築いた街で、
移民がその原動力となる
街であり続けます。

しかしなぜ、
ユダヤ人を自称する彼らは、
「移民政策」を推し進めて、
国境を取り除きたいのだろうか？

それは彼らが、
共産主義者だからである。

実は自称ユダヤ人の
カール・マルクスが、
生み出したとされる、
共産思想には、

「家族制度の否定」と共に
「国境の否定」ということも、
含まれている。

だから彼らは、
グレート・リセットによって、
世界共産革命をもたらすために、

「移民政策」によって
国家、文化、歴史を破壊し、
国境を取り除こうとしているのだ。

「移民政策の真の狙い」、
それは世界の共産化である。

マルクスが1848年に『共産党宣言』を世に出すと、

世界は「資本主義」と「共産主義」という2つのイデオロギーに別れて争ってきた。

資本主義は、「自由」を重視する経済体制のイデオロギーで、

アメリカ、イギリス、フランス、日本などが資本主義国だ。

一方の共産主義は、
「平等」を重視する
経済体制のイデオロギーで、
究極には「私有財産」が禁じられ、
すべての財産を共同で所有し、
国家がすべてを管理する。

かつてのソ連、
現在の中国、北朝鮮、
昔のカンボジアなどが
共産国家だ。

日本やアメリカなどでは今、
派遣社員が増え、

ネットカフェやトレーラーハウスで
暮らす人が増えて、
酷い超格差社会いなっているために、
「平等」を目指す共産主義は、
理想的に見えるかもしれない。

しかし共産国家は、
どこもかしこも「平等」にはならず、
むしろ「超・格差社会」を実現させ、

そればかりか
善悪がねじ曲がった
軍事独裁国家となって、
屍の山を築き上げた。

なぜなら「平等」を重視する
共産主義国家には、
「自由」がないために、
個人が才能を発揮して、
社会を「発展・繁栄」させる
ということがなかったからだ。

国民たちは、
「やはり共産主義はおかしい」
とすぐに気づいたが、
しかし国民が立ち上がると、
その度に共産政府は、
ことごとく自国民を粛清した。

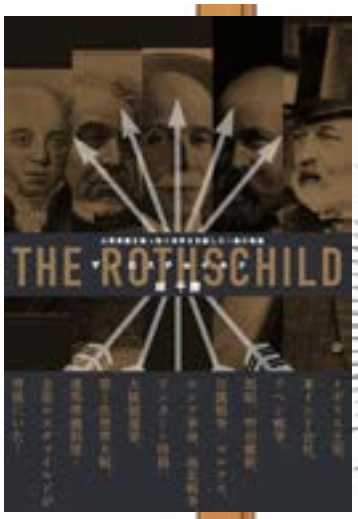
特にカンボジアでは、
「原始共産主義」と言って、
人々が平等に農業を行い、
収穫した作物を平等に分ける、
原始的な平等社会を目指した。

そのために独裁者ポルポトは、
「教養人や知識人は邪魔な存在」
と考えた。
そして
「インテリは本をよく読む、
本をよく読む人は目が悪い」
という安易な理由から、
メガネをかけているだけで
殺害された。

1997年にフランスで出版された
『共産主義黒書』によれば、
マルクス共産思想の基に、
約1億人の死者数と推計されている。

共産思想の闇を
深く見つめていくと、
どこか悪魔的に感じるだろうが、
それもそのはずである。

なぜなら近現代史研究家の
林千勝氏は自著
『ザ・ロスチャイルド』の中で、
次のように述べているからだ。



ロスチャイルドと
カール・マルクスは
親族関係です。

自称ユダヤ人のマルクスは、
自称ユダヤ人の詩人
ハインリヒ・ハイネを、
崇拝するように敬愛しており、

そしてそのハイネは、
自称ユダヤ人の
ロスチャイルドの屋敷に
身を寄せていたことから、

「親戚関係にあるマルクスと
ネイサン・ロスチャイルドが、
ハイネを通じて
深い繋がりがあった
可能性は高い」
とも、
林千勝氏は主張している。

共産主義を信奉している方には、
非常に申し訳ないが、
しかし真実として、
神を否定し、霊も否定することで、
人々から真の勇気を奪い取る
無神論・唯物論の共産思想は、
実は悪魔が喜ぶ思想なのだ。

人類最初の共産国家ソ連の
最高指導者レーニンも、
トロツキーも、
ソ連の中枢にいる多くの人間が、
自称のユダヤ人だった。

しかもソ連とイデオロギーで
対立している、
アメリカの大統領のルーズベルトも
自称ユダヤ人であり、
彼には「ソ連のスパイ疑惑」までである。

このことについて、
同じく自称ユダヤ人の
モルデカイ・モーセという
方が書かれた、

『日本人に謝りたい』
という書籍にも、
こうも記されている。

現実には、マルクスに
かくかくしかじかの
虚構理論の構築を
依頼した注文主がいるのである。

この注文主が
マルクスに送った手紙、
発注書ともいうべきものが
第二次大戦前に
世に出たのである。

発注者のユダヤ人
バリニッシュ・レヴィーの
マルクスに宛てた
手紙の一部である。

『日本人に謝りたい』
モルデカイ・モーセ

「メシアは団結せるユダヤ
それ自身である。
宇宙の支配は他人種の統一に、
各個独立主義の城壁たる
国境及び君主国の廃止と、
ユダヤ人に対し
随所に市民的権利を
認むる世界共和国の
建設によって
保たれるであろう。」

バリニッシュ・レヴィーが
マルクスに宛てた手紙

「メシア（救世主）」とは、
特定の個人ではなく、
団結したユダヤ人全体のことである。

世界に平和と支配を
もたらすためには、
国境や指導者を廃止して、
統一された「世界共和国」を
建設する必要がある。

この世界共和国では、
ユダヤ人は国を持たないが、
指導的な役割を果たす。

特に、ユダヤ人の指導者が
労働者階級を導くことで、
その指導的地位は強固になる。

世界共和国が実現すれば、
「プロレタリアート
（労働者階級）の勝利」
という形で、
統治権はユダヤ人の手に移る。

ユダヤ人の支配の下で、
すべての私有財産は廃止され、
「公共財産」として管理される。

その結果、ユダヤの伝統にある「メシアの時代」が実現し、ユダヤ人が全世界の人民の財産を管理・掌握することになる。

何度でも言うが、ユダヤ人は加害者ではなく、被害者である。

この『日本人に謝りたい』によれば、「自称ユダヤ人のマルクスに、同じく自称ユダヤ人のバリニッシュ・レヴィーが、虚構理論の創作を依頼していた」と、書かれているわけである。

「なぜ金融エリートや中国幹部は、
平等を重視する共産主義者なのか？」
と疑問に思うかもしれないが、
その答えは簡単だ。

たとえば東大の元教授で、
戦後の日本における
共産主義の第一人者に、
丸山眞男という男がおり、
彼の東大の授業の言葉から
共産主義の本質が読み解くことができる。

彼自身も別に、
「皆と平等に生きたい」とか、
「一緒に農作業をしたい」
などと考えていたわけではない。

彼ら知的エリートの思想とは、
「東京大学や京都大学を卒業するような、
そうした知的エリートたちこそ、
多くの大衆を導いていくべきであり、

知的エリートには、
その責務を担う当然の使命があり、

政治的に統治するために
必要なイデオロギーこそ、
「共産主義である」
というものである。

そして知的エリートを超えた、
金融エリート、
もしくは中国幹部たちになると、

「人々を家畜のごとく
奴隷支配していくためには
共産主義は絶対に欠かせない」、
と考えているわけである。

だから共産主義者というのは、
「平等」を理想と考えるあまり、

虚構の理論を盲信してしまい、
自分たちから進んで、
奴隷支配されようとしているわけだ。

つまり『タルムード』が、
権力者たちが、
世界支配の理想のために、
人々を家畜支配していく
思想であるのに対して、

『共産主義』というのは、
権力無き人々が、
「平等」に理想を求めて、
自分から家畜支配されていく
思想である、
そのように言えるわけなのだ。

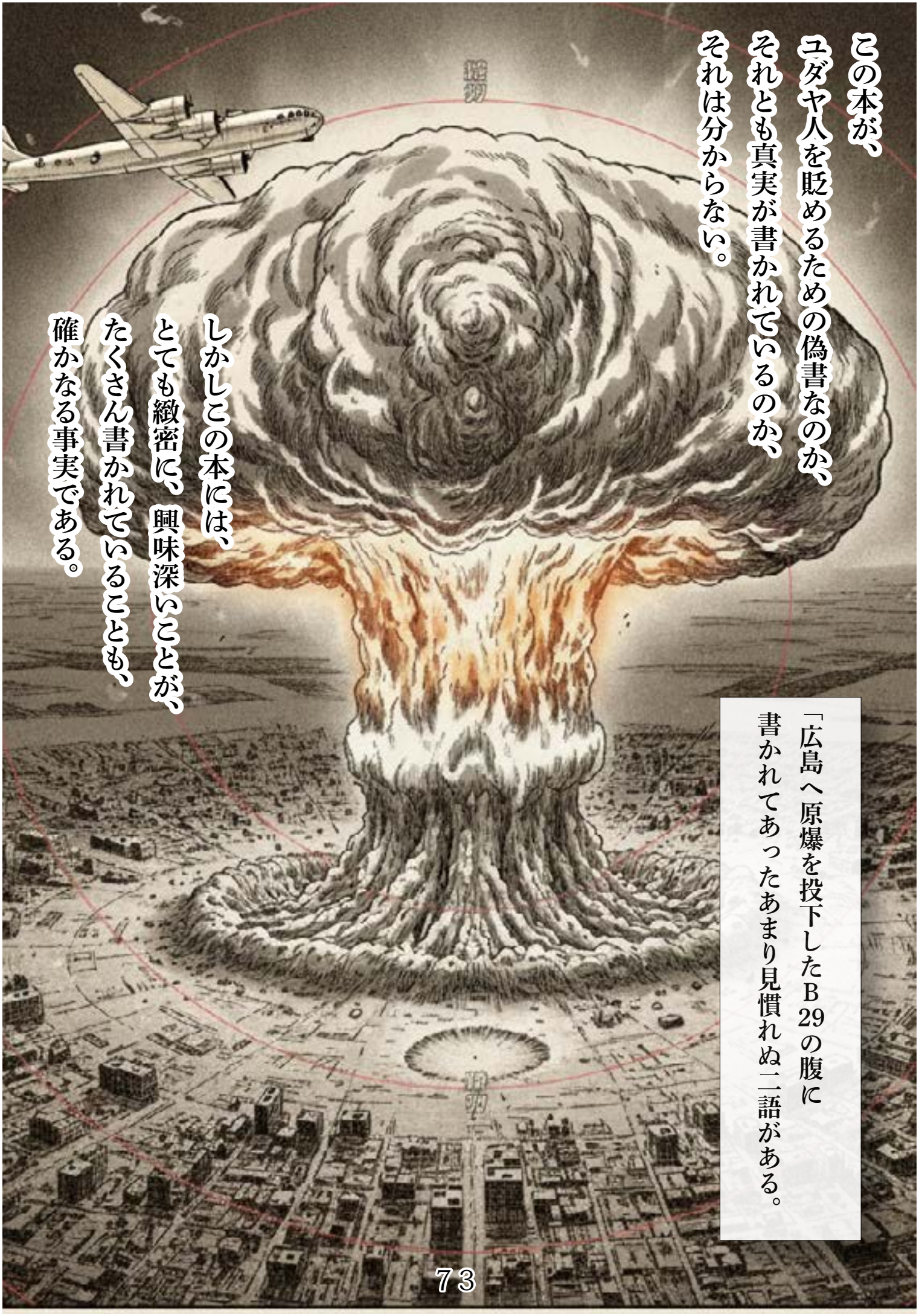
この『日本人に謝りたい』という書籍は、
自称ユダヤ人の
モルデカイ・モーセという人物が、

『自分たちは、
『タルムード』の思想にかられて、
日本を壊してしまったけれども、

しかし日本にこそ、
真のユダヤの理想があった、

だから日本を
壊してしまったことを
深く後悔しており、

そのことを日本人に謝りたい」
という内容である。



この本が、
ユダヤ人を貶めるための偽書なのか、
それとも真実が書かれているのか、
それは分からない。

しかしこの本には、
とても緻密に、興味深いことが、
たくさん書かれていることも、
確かなる事実である。

「広島へ原爆を投下したB29の腹に
書かれてあったあまり見慣れぬ二語がある。

Ｅｎｏｌａ Ｇａｙ（エノーラ・ゲイ）が
それである。
この意味はほとんど日本では
知られていないようである。
それはイディッシュ語である。

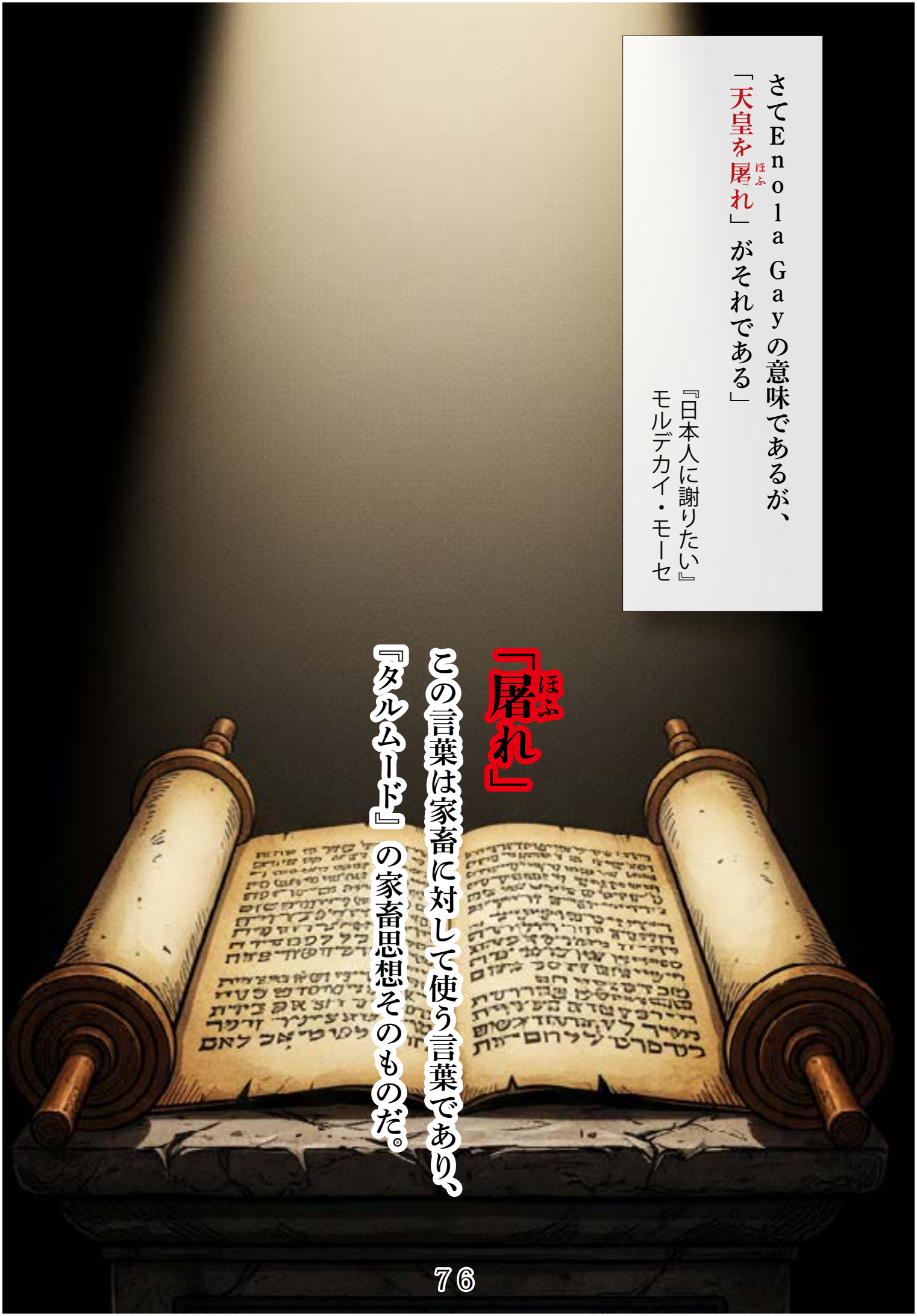
イディッシュ語とは
中東欧のユダヤ人が使っていた言葉で、

現在はニューヨークのユダヤ人の間で
使われている程度であるが、

第二次大戦前までは
中東欧で非常によく使われていた言語で、
ヘブライ語、ロシア語、
ドイツ語の混血語といえよう。

さてＥｎｏｌａ Ｇａｙの意味であるが、
「天皇を屠（ほふ）れ」がそれである」

『日本人に謝りたい』
モルデカイ・モーセ



「屠（ほふ）れ」

この言葉は家畜に対して使う言葉であり、
『タルムード』の家畜思想そのものだ。

さて、いろいろなことを述べたが、
簡単に話を整理すると、
建国の精神に平等思想を持つ
日本に生きる以上、

日本人は「区別」はしても、
「差別」はするべきではなく、
しかも日本は、
もともと多民族国家であった。

しかし金融エリートたちは、
共産主義であり、

彼らは「移民政策」を通じて、
国家を破壊し、

国境を取り除き、
共産革命を起こそうとしている。

そして中国共産党が、
同じく「移民政策」によって、

人海戦術を駆使して
戦うことなく、

日本を侵略している。

少し考えて欲しい。

イスラエル・パレスチナ
における何千年と続く紛争、

ロシアとウクライナの紛争、

休戦状態とは言え、
今も戦争状態の北朝鮮と韓国、

国境を巡って、
今も緊張状態が続く、
インド、中国、パキスタンの
核保有三カ国による
カシミール紛争、

中国が『自国の領土』と
主張している
台湾、尖閣・沖縄における緊張、

その他にも
シリア、イエメン、ミャンマー、
コンゴ、ソマリア、
ナイジェリアなど、
紛争地域をあげたらキリがない。

これまで本漫画を
読んで来られた方であるならば、
お分かりのように、

残念ながら世界は未だ、
「戦国時代」を脱し切れてはいない。

人類が憧れ続ける、
「飢え」も「争い」もない時代は、
まだ地球に来てはいないのだ。

考えてもみて欲しい。

わずか数十年前には世界大戦があり、

広島と長崎には原爆が落とされた。

明治、大正は、
とても貧しかったし、

日清、日露戦争もあった。

江戸時代にさかのぼれば、
もっともっと暮らしは貧しく、

農家の娘が遊郭に売られることもあった。

さらに時代をさかのぼれば、
人が死ぬことが、
まるで当たり前な
悲惨な戦国時代、

「私は平和主義で
戦は嫌いだからやめてくれ」
と言っても、
そこに住んでいるだけで、
容赦なく戦に巻き込まれた。

室町時代に起きた
「長禄・寛正の飢饉」では、
わずか2ヶ月の間に、
京都だけでも8万2千人の餓死者を出し、
鴨川が死体で堰き止められるほどだった。

そうであるにも関わらず、
当時の室町幕府は、
将軍の後継者を巡って、
お家争いを行い、
「応仁の乱」が起こった。

「応仁の乱」をキッカケに、
戦国時代の幕開けとなった。

鎌倉時代も、
後鳥羽上皇が
幕府を倒そうと
挙兵（承久の乱）したり、

あるいは「元寇」といって、
世界中の領土を支配していた、
チンギス・ハーン率いる元が、
日本に攻めてきたこともあった。

しかも日本よりも、
他のヨーロッパ、

アメリカ、アフリカなど、

他の大陸のほうが
もっとさらに悲惨であった。

確かに令和の時代は、
昔に比べれば遥かにマシだが、

しかし人類に、
「貧困」と「戦乱」が、
ずっと続いていることは確かだ。

だから
「世界はもう平和な時代を迎えた」
と錯覚するには、
まだまだ早過ぎると言える。

なぜなら世界はまだ、
戦国時代を終えてはいないからだ。

私はパレスチナのガザに
住む１０才のマイサムです。
テロリストではありません。
私に生きる勇気をください。

世界で最も多い難民は、
パレスチナ難民６００万人である。

2024年1月29日、6歳のパレスチナ人の少女
ヒンド・ラジャブちゃんは335発の弾丸を撃ち込まれた。

科学の発達で、
地球が小さく感じるようになった今、

現実問題として、
実は私たちのすぐ近くで、
戦争が行われているのだ。

ここで考えなければならないのは、
「地球人としての意識」の問題だ。
たとえば江戸幕末から
明治維新にかけて、
当時の日本人の意識は、
「藩」が国であり、

「長州藩」、「薩摩藩」、
あるいは「徳川」という体面に、
とてもこだわった。
そのために、
「日本人」としての共通意識を持って、
時代を進ませることに苦労した。

しかし他のアジア諸国同様、
欧米列強から日本も狙われて、
世界規模の戦国時代に巻き込まれると、

次第に『日本人』としての
共通意識を持つようになり、
友情も育まれていった。

もちろん現代を生きる私たちが、
肌の色を超え、
言語を超えて、
「地球人として意識」を持って、
愛の心を持つことは、
とても大切である。

しかし残念なことに、
時代はまだ**戦国時代**であり、

経済、教育、文化に大きな違いがある中、

誰でも彼でも「移民」として
日本に受け入れたら、

日本が滅んでしまうことを、
私たちは知らねばならない。

しかも金融エリートも、
中国共産党も、
同じく共産主義である。

つまり今、我々人類に起きている
『善の勢力』と『悪の勢力』の戦い、

『ハルマゲドン（最終戦争）』
というものは、
ある意味、共産主義との戦いなのだ。

では、私たち日本人は、
日本を、
イギリスやドイツのようには
させないために、

江戸時代のように鎖国して、
すべての「移民」を排除して、
日本一国の平和を保てば
良いのだろうか？

まず「移民」の定義として、
自分の国を離れて、
外国で生活する人のことを指す。
そのために長期の場合、
出張、留学、旅行も
「移民」にあてはまる。

だからすでに多くの日本人も、
「移民」として
海外に行っているわけだ。
そのために、
「鎖国して
日本一国の平和を保つ」
という選択肢は消える。

それにアメリカは、
『移民の国』そのものだが、

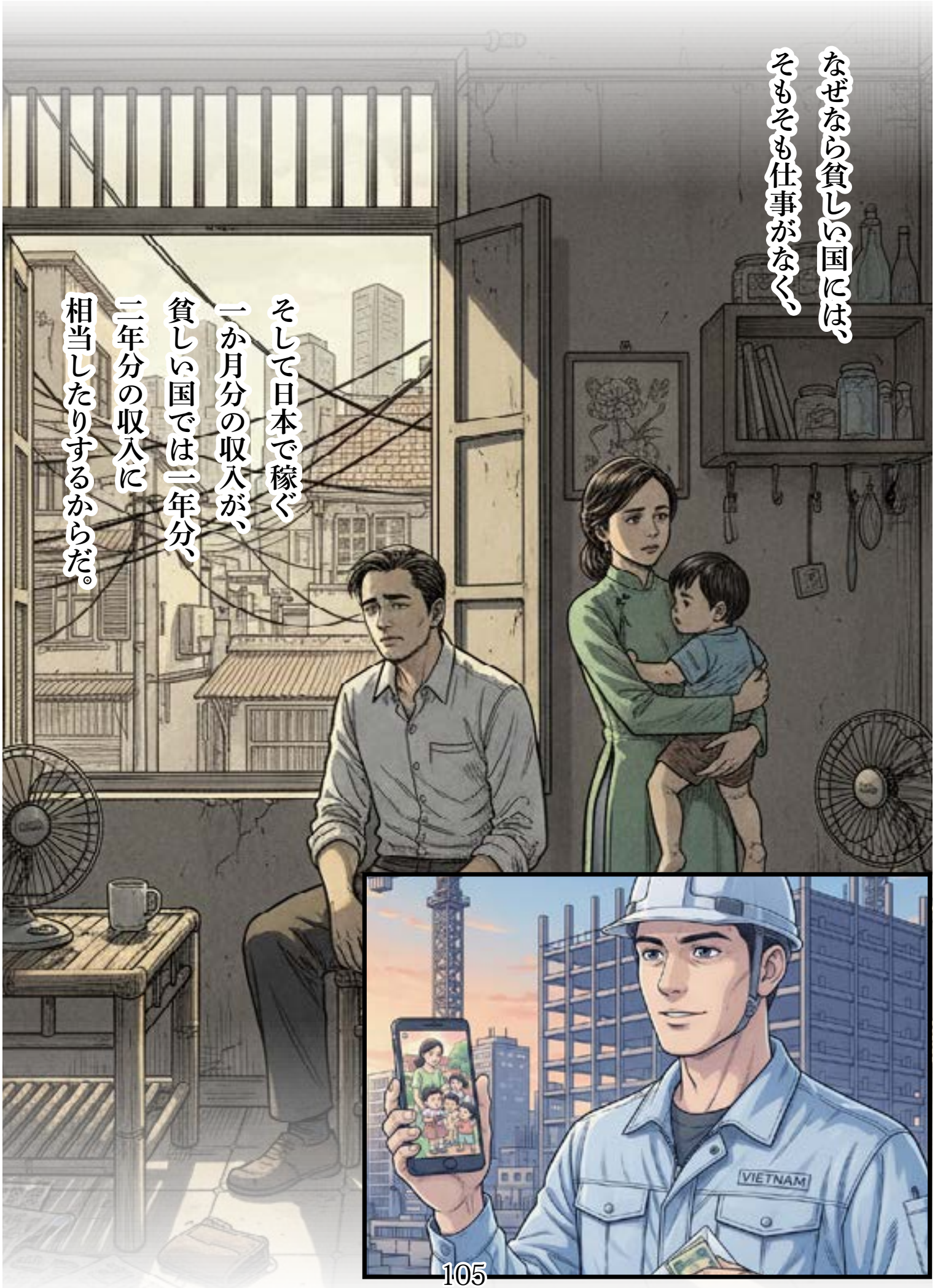
日本もある程度は、
『移民を受け入れてきた国』である。

ここで次に私たち日本人が、
真剣に考えなければ
ならないこと、
それが「ビザ」である。

レストランやホテルに、
一つ星とか、三ツ星とか、
ランキングがあるように、
「パスポート」というものにも、
実はランキングがある。

そして日本のパスポートは、
世界でもトップレベルであり、
「ノービザ」で、
ほとんどの国に
行くことができる。

その一方で、
貧しい国の人々にとって、
「ビザ」がおりるかおりないか、
ということは、
実は人生を左右する大事件だ。


なぜなら貧しい国には、
そもそも仕事がなく、
そして日本で稼ぐ
一か月分の収入が、
貧しい国では一年分、
二年分の収入に
相当したりするからだ。
VIETNAM

つまり
ビザに規制をかけることで、
外国から入ってくる移民に、
歯止めをかけておかないと、
豊かな国が滅んでしまうわけだ。

しかし腐敗した日本の政治が、
「ビザの規制緩和」を
ずっと行い続けてきたことで、
日本は滅びの道を歩んでいるのだ。

では、
なぜ日本の政治は、
ここまで腐敗し切って、

日本の伝統と文化を
破壊して、

中国の侵略を、
許し続けているのだろうか？

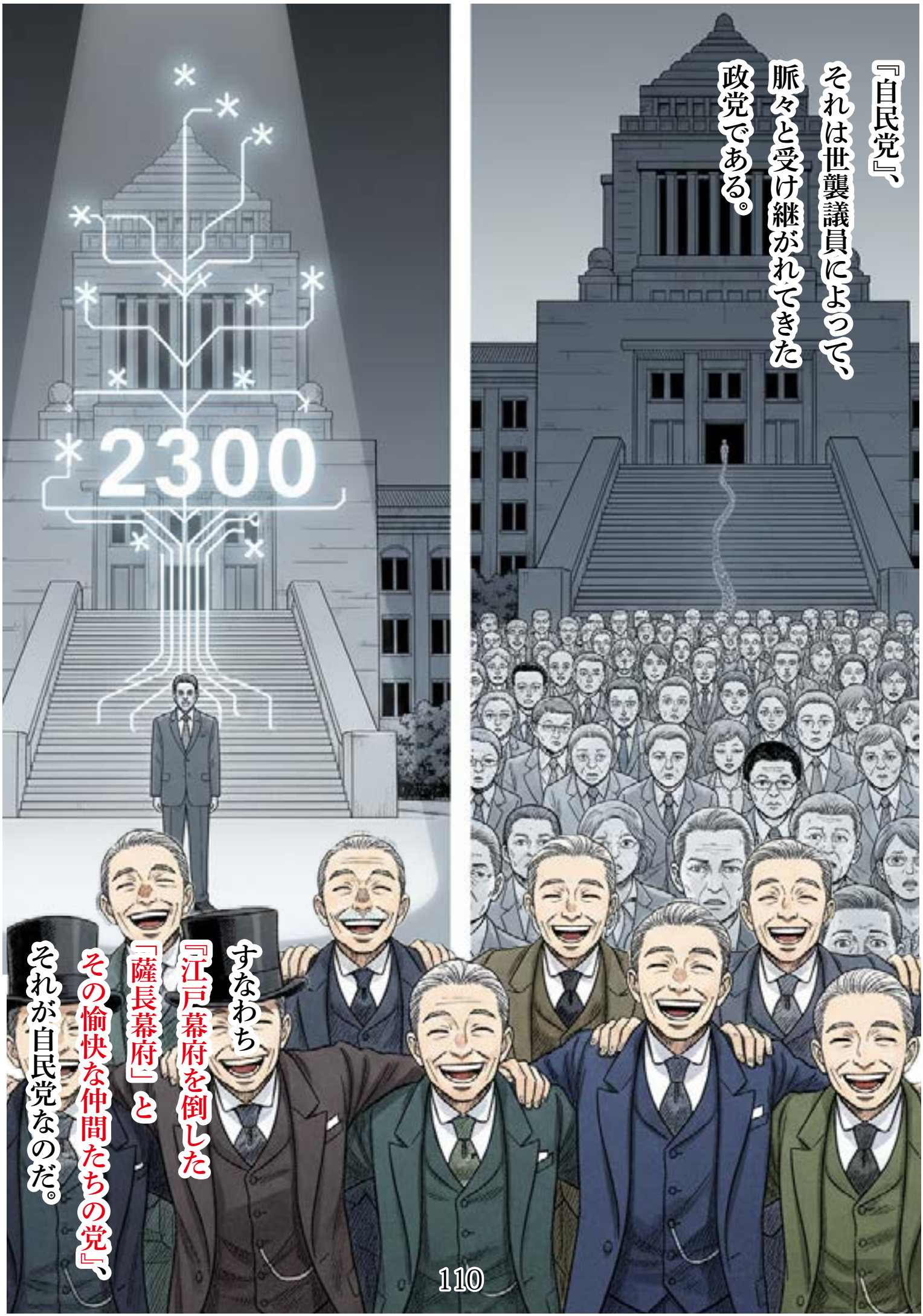
科学者の苫米地英人氏によれば、
明治維新が起きて以来、
親族に国会議員が
いる人といない人とでは、
政治家になれる確率は
２３００倍だという。

実のところ現代日本には、
『カースト制度』が
存在しているのだ。

生まれによって、
すべてが決定されて、

そこには
何らの才能も個性も、
そして努力さえも
入り込む余地がない

醜い「カースト制度」が、
密かに日本の存在しているのである。


『自民党』、
それは世襲議員によって、
脈々と受け継がれてきた
政党である。
2300
すなわち
『江戸幕府を倒した
「薩長幕府」と
その愉快な仲間たちの党』、
それが自民党なのだ。

高市総理の後ろ盾である
麻生太郎は、
薩摩藩の
大久保利通の子孫である。
日本は明治維新以降、
政治も、官僚も、
薩長閥に牛耳られてきた。

もしくは
薩長閥の仲間に加えられた、
彼らと親しい者たちによって、
日本は牛耳られてきた。
それがここ百五十年の
日本の真実である。

世襲政治に否定的だった
菅義偉元首相の内閣でさえ、

世襲議員
ばかりでは、
日本の政治は
立ちゆかない。

結果的には20人の閣僚のうち
12人が世襲議員だった。

世襲議員無くして
成り立たない政党、
それが『自民党』なのである。

では、世襲議員の弊害は何か？

雑誌『リベラルタイム』（２０１６年９月号）の元読売記者・高橋利行氏によれば、

たとえば、かつて
建設大臣を務めた河野一郎が、

息子の「紅の傭兵」こと
河野洋平を連れて、
地元の道路建設現場を視察した時、

河野一郎は建設業者に
次のように指示を出した。

今年はここまで！
あとは来年度に。

この指示を聞いて、
建設業者は
大喜びしたことだろう。
パパ、なぜ今年中に
最後まで工事を
終わらせないの？
年度内に
仕上げようと
思えばできる。
だけどそれを
やってしまったら、
そこで終わり。

無駄に引っ張って、予算を来年も組んでやれば、

票に繋がるのだ。

うぁ～！パパって頭いい！

税金で行われる公共事業をあえてゆっくり行わせることで、税金によって票を買っているのだ。

たとえ税金によって、
票が買われていたとしても、
徳ある政治家によって、
素晴らしい徳治政治が行われて、
国民が幸せになっていくならば、
百歩ゆずってまだ分かる。

民は
健やかだろうか…

しかし実際は、
無能な政治家ばかりと言える。

どうやって
税金を
増やそうか？

こんなジョークがある。

ある時、大谷翔平が銀行に取引に行った。

しかし彼は身分証明書を忘れてしまった。

私は大谷翔平です。

身分を証明できるものを忘れてしまったのですが、

どうしてもこちらの銀行と取引がしたいのです。

では、貴方が本当に大谷翔平であるという証明をしてみてください。

・・・。

グリリ

分かりました。

ブワッ
凄いスイングだ…！
間違いありません。貴方は大谷翔平です！取引しましょう！

続いて、岸田元総理も同じ銀行を訪れたが、彼も身分を証明できるものを忘れてしまった。

貴方が岸田元総理であるという証明をしてみてください。

私は、自分が岸田文雄であるという証明をすることは何もできないんです。

しかしこちらの銀行と取引がしたい…

それでは取引できません！

何でもよいので日本の元総理という証明をしてください！

本当の本当に！私は何もできないんです！

私には何もできません！

凄い無能さだ…！

間違いありません。貴方は日本の元首相です！取引しましょう！

岸田元総理も世襲だが、
こうした無能な世襲議員で
溢れているために、

選挙なんて
行っても仕方ねぇし

いつしか日本人は、
政治を、どこかバカに
するように
なってしまった。

その結果、
日本国民の暮しは、
重税と物価高によって、
日に日に苦しくなるばかりか、

「移民政策」によって、
伝統と文化が破壊され、
滅びの危機を迎えている。

「絶対権力は絶対に腐敗する」
と言われているように、
世襲による
腐敗政治の極み、
それが「薩長幕府」の
成れの果てである。

実は明治維新から、
薩長幕府には問題があた。

私に通貨の発行権と
管理権を与えよ、
さすれば誰が
どんな法律を
作ろうと構わない

そう述べた初代ロスチャイルド、
マイヤー・アムシェル。

彼には
五人の息子がいて、
彼の妻グートレは
こう述べたという。

「私の息子たちが
戦争を望まなければ、
戦争は起こりません」

ロスチャイルド家を、
大発展させたのが、
三男のネイサンで、

ネイサンの息子が、
ライオネルであり、

この時代に、
ロスチャイルド家と、
親戚であるマルクスが
詩人ハイネを通じて、
親交があった可能性については
すでに伝えた通りである。

この時代、
伊藤博文をはじめとする
「長州ファイブ」も、
ロスチャイルドから支援を受けて、
イギリス留学をしており、

彼らは、
欧米の良いところだけを見せられ、
「政治の闇」を見破れなかったのか、
その後、
日本は「脱亜入欧」を掲げ、
激しい日本の西洋化が始まり、

『FRB』より先に、
『日本銀行』が創設された。

「アジア主義」を掲げたのは
「西洋は野蛮だ」
と主張した西郷隆盛であり、

この「アジア主義」を受けぎ、
「八紘一宇」の思想のもと、
「アジアで一つにまとまろうと」
という考えが生み出され、

『大東亜共栄圏構想』
というものが生まれた。

かつての日本人は、

アジアの同胞のために戦い、

そして死んでいった。

だからこそ先の大戦を
『大東亜戦争』
と呼ぶのだが、

自虐史観の教育では、
『太平洋戦争』
と習う。

真実を知らされない教育では、
「日本人としての誇り」を持てず、

日本人としての誇りを持てなければ、
「日本に未来」について、
真剣に考えることもなく、

日本人が「日本の未来」について
真剣に何も考えなければ、
勉強しても、努力しても、
はたらいても、はたらいても、
延々と利益を吸い上げられて、

腐敗した世襲政治が
ただ続くことになる。

だから現在の日本の問題の本質は、
私たち日本国民が「無関心」となり、
「世襲制腐敗政治」を黙認し、
「醜いカースト制度」を
放置していることにある。

日本の問題は日本国民の意識、
無関心、
すなわち私たちの
心の問題なのだ。

しかし実はこの「無関心」も、
けっして偶然の産物ではない。

なぜなら戦後の日本では、
日本人の意識を、
政治から切り離して、
「無関心」にする洗脳工作が、
いろいろと行われてきたからである。

ウォーギルト インフォメーション プログラム
「W・G・I・P」
という工作によって、

「日本は侵略国家の悪い国、
日本人は悪くて卑怯な民族」
という洗脳工作が行われてきた。

金融エリートたちは
まず『東京裁判』を行い、
「戦争の原因はすべて日本側にあり、
だから正義の国アメリカが、
核兵器を落とした」と結論づけた。

そして教育やマスコミを通じて、
日本人に『自虐史観』を叩き込み、
「日本人としての誇り」を奪った。

その一方で、
日本人の「尊米感情」を育てるために、
アメリカやヨーロッパに、
憧れを持たせる
「パネルDジャパン」も行われた。

日本のテレビ番組が
まだ少なかった戦後、
アメリカのドラマやコメディーが、
次々と日本に輸出されて、
ゴールデンタイムで放送された。

つまり「パネルDジャパン」とは、
テレビをはじめとする
エンターテイメントを通じて、
アメリカの文化や風習を
日本人に見せつけることで、

日本人に「アメリカは凄い」、
「アメリカにはかなわない」と、
心理的に誘導する洗脳工作である。

こうしていつしか日本人の意識は、
「国家」とか、「政治」には、
向かわなくなったわけだが、

それと同時に
「3S政策」も行われた。

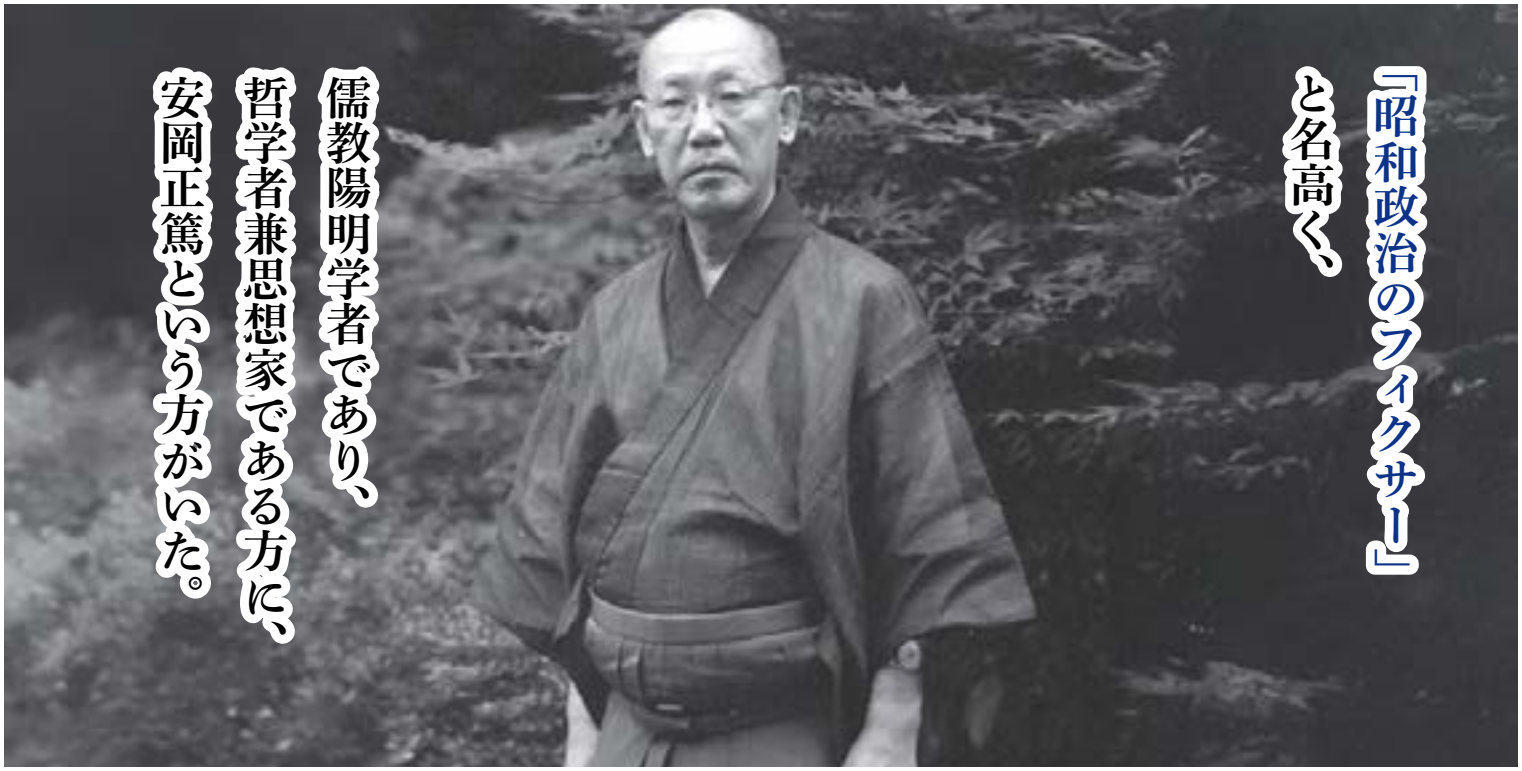
「3S政策」とは
スポーツ、スクリーン、セックスを
流行らせる政策のことである。

すなわち
野球やサッカーといった
スポーツ文化、

映画やテレビといった芸能文化、

さらには性文化、

これらを流行させて、
そちらの方向に、
国民の意識を向けさせる政策、
それが「3S政策」である。



「昭和政治のフィクサー」
と名高く、

儒教陽明学者であり、
哲学者兼思想家である方に、
安岡正篤という方がいた。

彼が占領軍GHQの
ガーディナー参事官（フルネーム不明）から、

この「3S政策」について聞いたという。

実際にかつての古代ローマにおいても、
市民たちは圧政に苦しめられながらも、
権力者たちから
無償で与えられる「食糧」と
「娯楽」によって、
政治的に盲目になっていた。

その奇妙な光景を見て、
詩人ユウェナリスは
「パンとサーカス」と揶揄した。

「サーカス」とは、
古代ローマの競技場で
行われていた馬車による競技、
あるいは剣闘士の試合のことである。

「パン」とは、
現代的に言えば、
高い税金と引き換え位に、
一時的に配られる給付金など
「バラマキ政策」のことである。

日本国民も、
「パンとサーカス」によって、
目くらましされ続けているのだ。

実際に日本では、
「日の丸」さえ掲げられない
戦後の息苦しいGHQ占領下の中、
駅という駅に街頭テレビが設置された。

そして岸信介、児玉誉士夫と同様に、
ＣＩＡのエージェントであった
正力松太郎がオーナーを務める
『日本テレビ』は、
プロレスを大々的に流した。

力道山が卑怯な反則技を使う
外国人レスラーを空手チョップで倒すと、
日本中から歓声が沸き起こった。

また正力の『日本テレビ』と言えば、
日本の野球界を牽引してきた
『巨人』でも有名だ。

すでに述べたように、
『ジャイアンツ』とは
ヘブライ語で『ネフィリム』である。

昭和の時代、
家でナイター中継を見ながら、

団扇を片手にビールに枝豆、
これは日本中で見られた光景だが、

実はその光景は、
「偶然の産物」
ではなくて、
心邪まなる者たちによって、
意図的に作り上げられたもの
であったのだ。

実際に、
映画監督の佐々木氏は
GHQに呼び出されて、
映画に「キスシーン」を
入れるように命令されている。

日本人は恋愛、情愛の面でも、
コソコソすることなく、
堂々と自分の欲望や感情を
人前で表現することが、
日本人の思想改造には
不可欠であり、

日本人は恋愛や性に対して
奥手だからこそ、
侵略戦争なんて
愚かなことを行ったのだ。

こんな命令を受けて1946年、
日本初のキスシーンが入った、
映画『はたちの青春』が公開された。

冷静に歴史を見つめれば、
白人たち欧米列強国こそ
アジア、アフリカ、
オセアニア、
アメリカを侵略し尽くし、

なかかつ彼らは、
日本を追い詰めて、
戦争せざるを得ない
状況を築き上げた。

しかしそれでも彼らは、
「日本が侵略を行ったのは、
恋愛面でコソコソしているからだ」
などと、ふざけたことを述べたわけだ。

お前らに心配されなくても、
日本人男女は清純な付き合いをして、
きちんと恋愛し、
そして結婚し、
今よりも多くの子を
産んでいたことは歴史的事実である。

この映画『はたちの青春』は、
連日、超満員となった。

この映画では、
「3S政策」の中でも、
「スクリーン」と「セックス」の
2つが用いられたと言えるだろう。

今、日本人の性が乱れているのも、
けっして偶然の産物ではない。

やがて日本人の手によって、
テレビ番組が作られると、
社会評論家の大宅壮一は、
『一億総白痴化』
と述べた。

テレビに至っては紙芝居同様、
否、紙芝居以下の白痴番組が
毎日ずらりと列んでいる。

ラジオ、テレビという
最も進歩したマスコミ機関によって、
「一億白痴化運動」が
展開されていると言って好い。

「W・G・I・P」、
「パネルDジャパン」
といった工作は、
機密文書の公開、流出から
すでに明らかになっているものの、

「3S政策」が行われた事実は、
明らかになっているわけではない。

しかし戦後の日本人の意識が
『3S』にばかり向いていることが、
この洗脳工作が行われてきた、
最大の証拠ではないだろうか？

何よりも、
『はたちの青春』以降、

日本人の思想改造が
行われたのは
歴史的事実である。

2025年は
「オールド・メディア」
という言葉が
流行語大賞になった。

「日本のテレビ、新聞、ラジオが、
真実を報道しない。」
ということは、
少しずつ認識されつつある。

しかし
「GAFAMも、
真実を届けることは困難だ」
と認識する必要がある。

なぜなら『X』や『YouTube』
といったプラットフォームも結局、

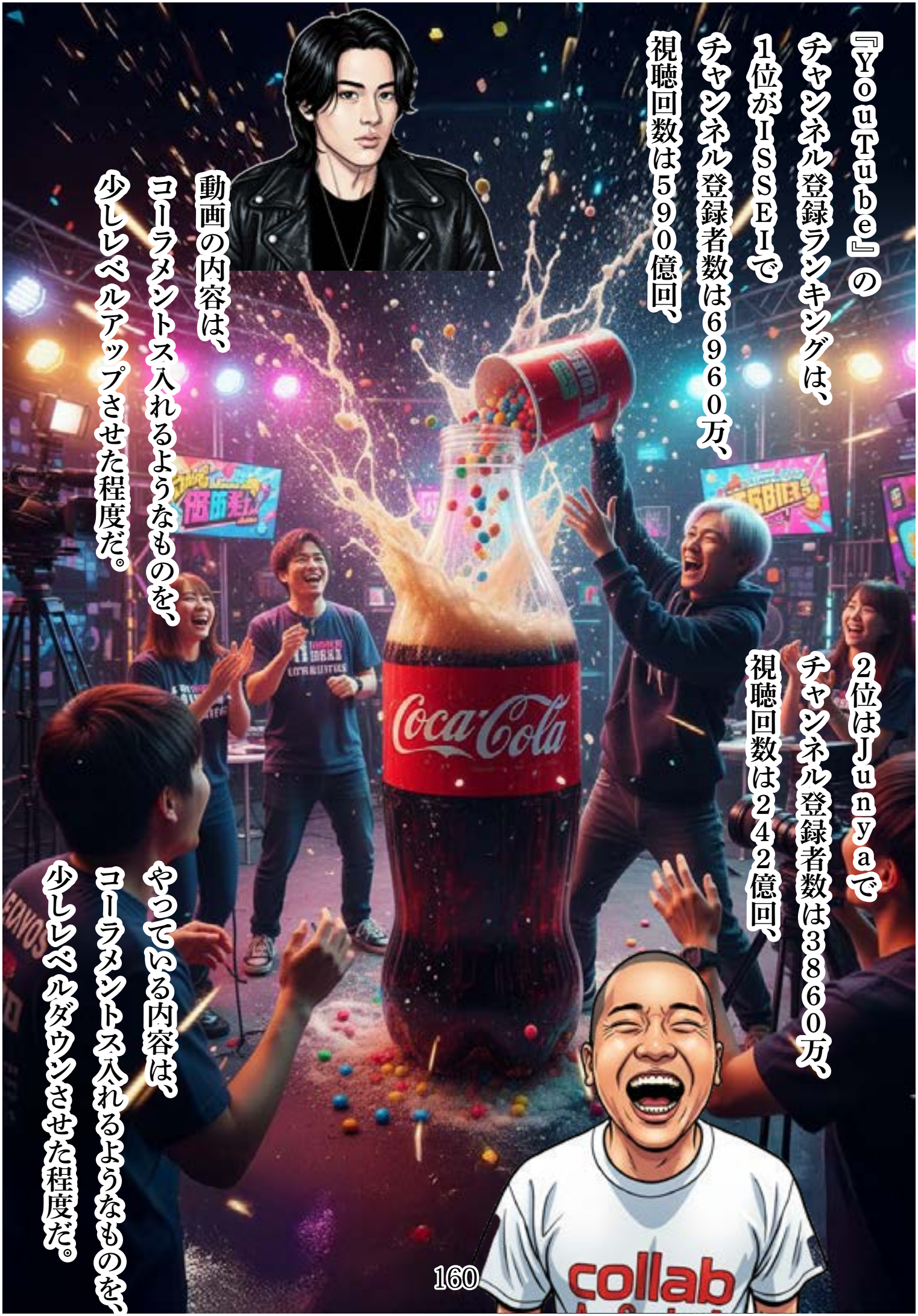
邪悪なるアルゴリズムがあると見て、
ほぼ間違いないからだ。

2025 年 11 月

たとえば日本の『X』の
フォロワーランキングは、
1位が『ZOZO』の
前澤友作で
943万フォロワー、

2位はお笑い芸人の松本人志で
911万フォロワー、

3位は元セクシー女優の
三上悠亜で886万フォロアー。

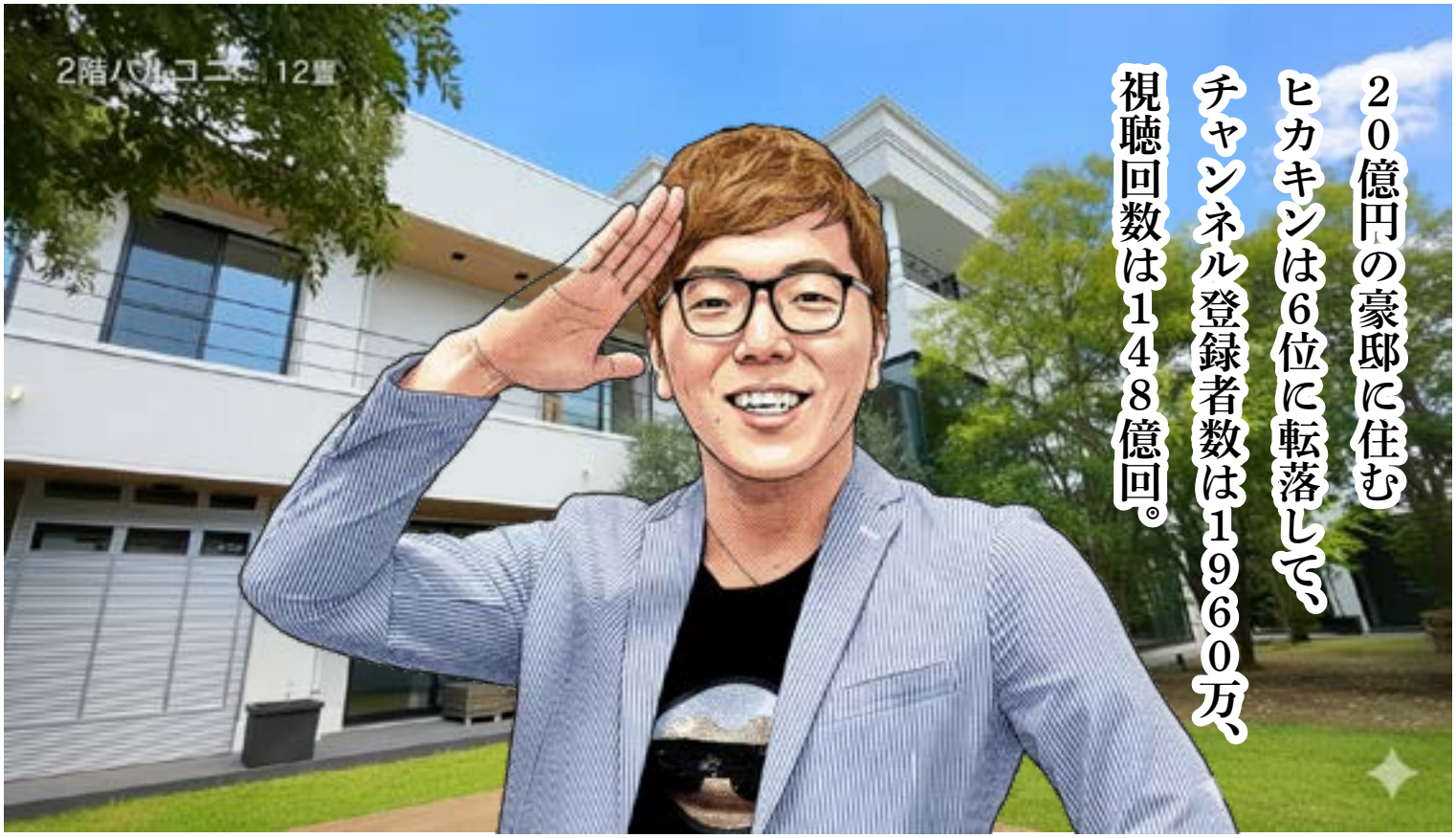


『YouTube』の
チャンネル登録ランキングは、
1位がISSEIで
チャンネル登録者数は6960万、
視聴回数は590億回、

動画の内容は、
コーラメントス入れるようなものを、
少しレベルアップさせた程度だ。

2位はJunyaで
チャンネル登録者数は3860万、
視聴回数は242億回、

やっている内容は、
コーラメントス入れるようなものを、
少しレベルダウンさせた程度だ。



２０億円の豪邸に住む
ヒカキンは６位に転落して、
チャンネル登録者数は１９６０万、
視聴回数は１４８億回。

その一方で『Google』は、
特定の人物をターゲットにして、
「人物ＢＡＮ（削除）」を行い、
あからさまな言論統制を展開している。

社会評論家の大宅壮一は、
「テレビは紙芝居以下、
『一億白痴化運動』が展開されている」
と述べたが、

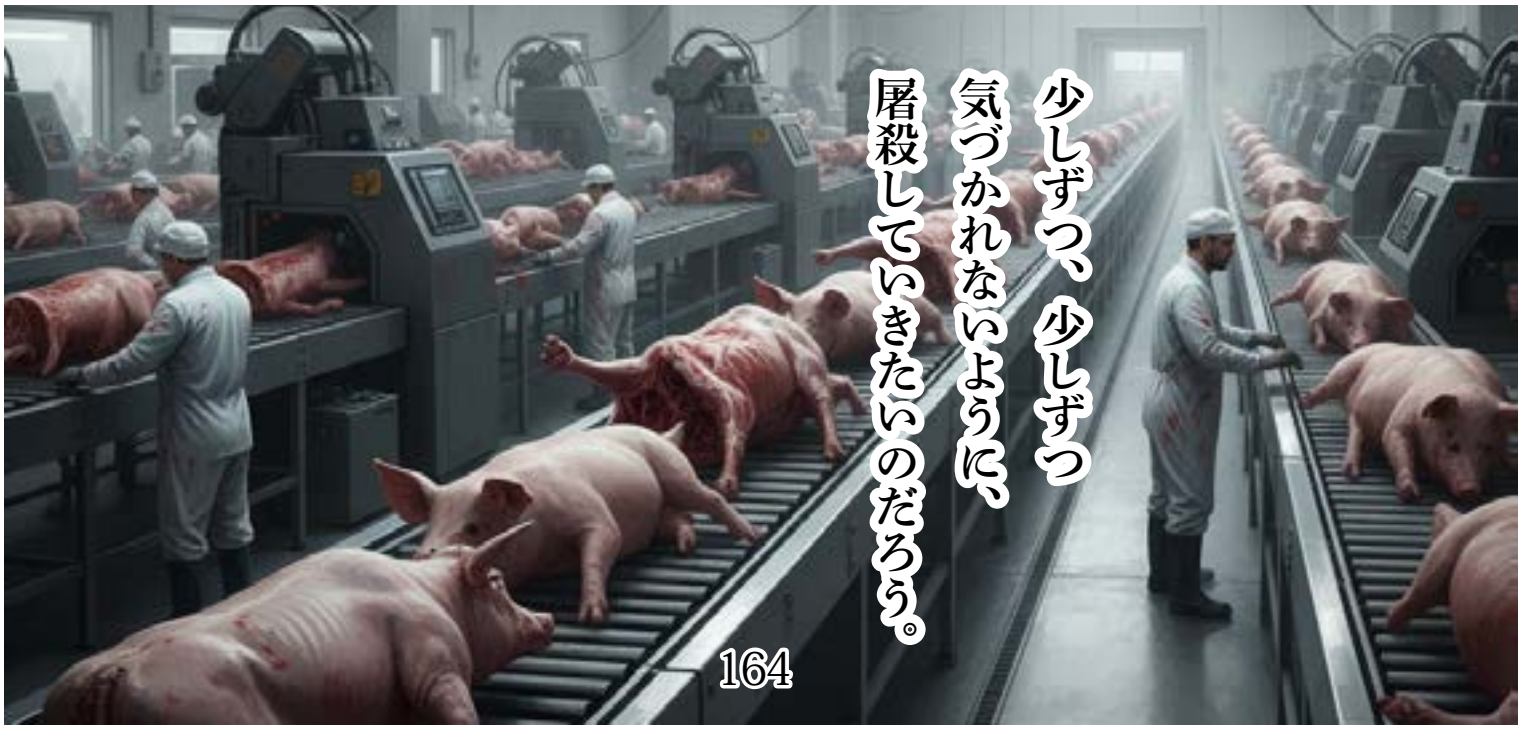
『YouTube』にいたっては、
「幼稚化運動」が展開されている、
と言えるだろう。

金融エリートたちは、
小銭をユーチューバーに渡して、

贅沢な暮らしに憧れを持つ人々が
ユーチューバーに憧れを持って、
ユーチューバーを目指すように、
仕向けると同時に、

真実を語る者を、
インフルエンサーに
することなく、
永遠に真実を覆い隠して、

我々のことを金融奴隷にして、


少しずつ、少しずつ
気づかれないように、
屠殺していきたいのだろう。

ナチスが建てた
ユダヤ人強制収容所
『アウシュヴィッツ』の入り口には、
ドイツ語で
「ARBEIT MACHT FREI」
（アールバイト マハト フライ）
と書かれてあった。

これは
「働けば自由になる」
という意味だが、
しかし実際には、
ユダヤ人は働いても
自由にはなれなかった。

これと同様に、
『X』や『YouTube』で、
必死に頑張れば、
「いつかはきっと必ず
真実が広まる」、
と錯覚してしまうが、
現実はそうではないわけだ。

チャンネル登録1000万
フォロアー数1000万を超えて、
世に影響力を持てるのは、
「幼稚化運動」に則った者か、
真実を語らない者ばかりだ。

つまりインターネットネットにも、
「3Sアルゴリズム」、

すなわち
「悪魔のアルゴリズム」
が存在しているということだ。

つまり悪魔教徒どもは、
『W・G・I・P』によって、
『日本人としての誇り』を奪い取り、

『パネルDジャパン』によって、
『尊米感情』を育て上げて、

完全に日本人の意識が、
「国家」や「政治」から、
切り離されたところで、

「3S政策」によって、
その日本人の意識を、

スポーツ、スクリーン、
セックスに釘付けにする
洗脳工作を行ったわけだ。

先ほど紹介した
『日本人に謝りたい』にも、
「人間獣化計画」として、
少しだけこの「3S政策」に触れている。

愛国心の消滅、悪平等主義、拝金主義、自由の過度の追求、道徳軽視、3S（Sports Sex Screen）政策、事なかれ主義、無気力・無信念、義理人情抹殺、俗吏属僚横行、否定消極主義、自然主義、刹那主義、尖端主義、国粋否定、享楽主義、恋愛至上主義、家族制度破壊、民族的歴史観否定・・・

戦後の日本の病巣といわれるものにあてはまらないものがただの1つでもあるだろうか。

しかし何度でも言うが、
ユダヤ人のレヴィ・ストロースが、
「日本は比類無き素晴らしい国」
と絶賛してくださったように、
あくまでもユダヤ人は、
加害者ではなく被害者だ。

一部の悪人だけを見て、
その民族や人種すべてを、
「悪人」とレッテルを貼ることは、
大きな間違いと言えるだろう。

日本人の中にも
善人もいれば、
悪人もいれば、
狂人もいるように、

ユダヤ人の中にも、
善良なユダヤ人もいれば、
悪いユダヤ人もいれば、
悪魔教徒のユダヤ人もいる。

その悪魔教徒のユダヤ人だけを見て、
「ユダヤ人は全て悪」とレッテルを貼って
差別を生むように考えるのではなく、
むしろ「ユダヤ人」であることを、
完全に切り離して考えて、

『新約聖書』の「ヨハネの黙示録」が
終末の時代に出現を予言しているように、
「ユダヤ人を自称する悪魔教徒」
と考えるべきなのだ。

そしてそのように民族差別することなく
冷静にユダヤ人について考えるのならば、
約百年前に書かれた**史上最悪の偽書**

『シオン賢者の議定書』の謎が
ようやく解けると言える。

「シオン」とは、
聖地エルサレムを中心にした
パレスチナ・イスラエルの土地のことであり、
特に『シオンの丘』という場所は、
ユダヤ教徒にとって聖地である。

この偽書の内容は、
『ユダヤ人たちは世界征服を企んでおり、
彼らは25の世界征服計画を持っている』
といった、まったく酷いデタラメだ。

この偽書が引き金となって、
ヒトラー率いるナチス・ドイツによって、
ユダヤ人迫害が行われたと言われている。

ヘンリー・フォードでさえ、
この偽書を「真実」と信じてしまって、
１９２０年にわざわざ出版して、
ナチスにフォードの車をプレゼントしたり、
資金援助まで行っていた。

しかし１９２７年、フォードは、
「議定書」を出版したことを謝罪し、
「酷い偽書」であったことを認め、
書物の焼却、出版停止を指示した。

『シオン賢者の議定書』は、
あくまでも偽書であり、

ユダヤ人は被害者であり、
あくまでも真の加害者は、
ユダヤ人を自称する悪魔教徒である。

だが、偽書『シオン賢者の議定書』に
記されている「ユダヤ人」という言葉を、
「ユダヤ人を自称する悪魔教徒」
という言葉に置き換えると、
この史上最悪の偽書は、
真実の書になるのだ。

たとえばこんな一文がある。

【第十三の議定】

彼らに事情をさとらせないために、
我々はマスコミ、
さらにマス・レジャー（大衆娯楽）を
盛んにする。

画像は19世紀末から20世紀に
人気を博した「ヴォードヴィル」

やがて我々の新聞で芸能、

スポーツがもてはやされ、

クイズも現われるだろう。

これらの娯楽は、
我々と政治闘争しなければならない
人民の関心を、
すっかり方向転換させてしまう。

こうして人間は、
次第に独立して
自ら思索する能力を失い、

すべて我々の考える通りにしか
考えられないようになる。

百年前なので、
「新聞でスポーツやクイズをもてはやす」
と述べているが、

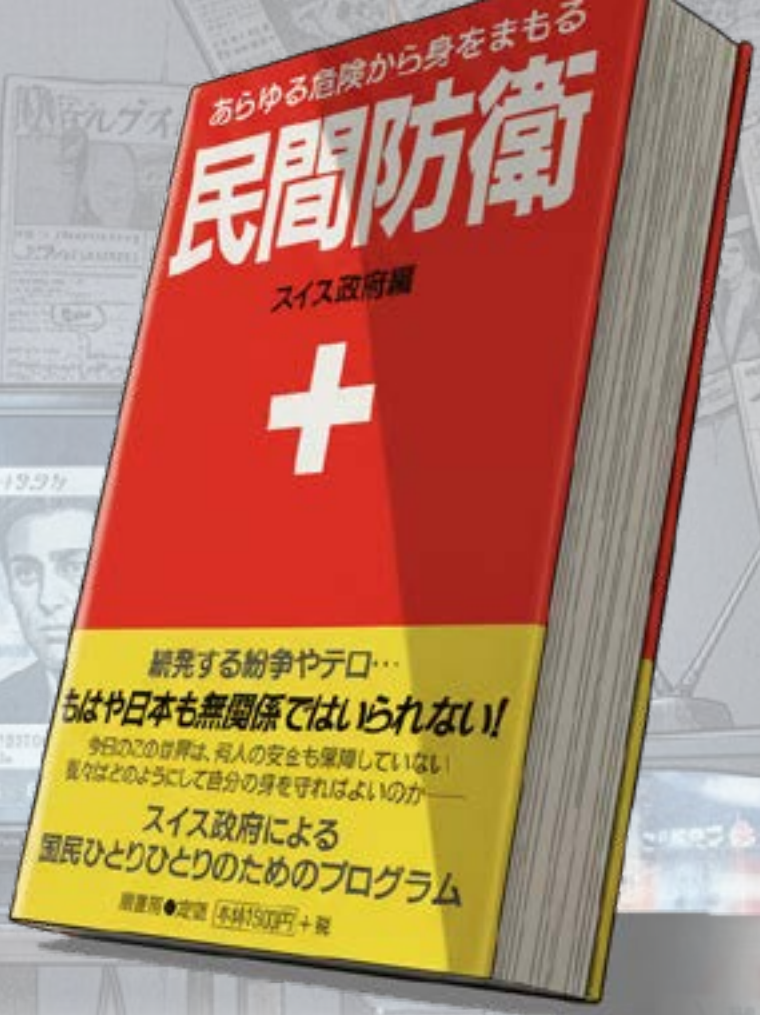
現代的に言い換えるならば、
「テレビやネットで
スポーツやクイズ、ゲームなどの
娯楽をもてはやす」
と言い換えられるだろう。

紹介する順序が逆になったが、
この偽書の【第十三の議定】が、
「3S政策」などの具体的な、
洗脳工作に繋がっていると言える。

『孫子の兵法』が『戦わずに敵に勝つ』
ということを述べているのに対して、

この偽書は結局、
『敵に戦わせず勝つ』
ということを述べている。

この史上最大の偽書『シオン賢者の議定書』に記されている内容は、エピソード7で紹介した「スイスの民間防衛」に通じている。



民間防衛－あらゆる危険から身をまもる

1. 工作員を送り込み、政府上層部を掌握、洗脳。
2. 宣伝、メディアの掌握、大衆の扇動、無意識の誘導。
3. 教育の掌握、国家意識の破壊。
4. 抵抗意志の破壊、平和や人類愛をプロパガンダとして利用。
5. 教育や宣伝メディアなどを利用し、自分で考える力を奪う。
6. **国民が無抵抗で腑抜けになった時、大量植民。**

こうした意識洗脳工作が、
かなり功を奏しているために、
いつしか我々日本人は、
搾取され続けながら、

自分たちもまた、
知らぬ間に搾取する側に
回ってしまっているのだ。

しんきょうめん
新疆綿

それは
「ほぼ全ての日本人が
新疆綿を使っている」
ということが理由の一つである。

新疆綿とは、
ウイグルで栽培される繊維綿のことだが、
この綿は、
中国共産党によって、
強制労働させられている
ウイグル人が作り出している。

いつの間にか、
私たちの衣類は血塗られていたわけだ。

これは、
気づかぬうちに私たち日本人が
「強制労働」に加担していると言える。

嫉妬するべきではないが、
普通に考えてみて、
少しおかしいことには、
気づくべきである。

2024年の大谷翔平の
150億円以上の年俸を、

月収に換算すると約10億円、
週給だと約2．4億円、
日給だと約3412万円、

時給だと約142万円、
分給だと約2．4万円、
秒給だと約400円になる。

いくら我々の意識が、
百年以上の歳月をかけて、
すっかり方向転換
させられているとは言え、

一秒ごとに、
彼の祖国は滅びに向かい、

が共産革命の中で、
世界そのものデストピアに
向かっていることは事実だ。

この一秒ごとに
デストピアに向かう地球において、
一秒ごとに４００円稼ぐ
大谷が問題なのではなく、

その一方で、
政治の大切さを忘れ過ぎている、
これこそが大問題なのだ。

地球人類が今、
あまりにも芸能やスポーツばかりを、
もてはやし過ぎて、

なぜならそれは、
罠だからだ。

結局において、以上なほどに、
大谷翔平を儲けさせているこの星は今、
悪魔に堕落させられている
そう言えるだろう。

日本は今、
移民によって
文化や伝統が破壊され、

さらには
侵略の危機にあるわけだが、

では、移民における、
「差別」と「区別」の違いは、
果たして何であるのか？

その答えを導き出すには、
「移民の本質」を、
我々は見抜かなければならない。
今、日本でも「移民」に対して、
意見が分かれている。

人間にファーストも、
セカンドもあるか！
それはただの差別だ！

日本人ファーストだ！
だから移民には
絶対に反対だ！

なぜ同じ日本に生きる者同士で、
こんなにも意見が分かれるのか？

それは『正義』というものは、
知識によって分けることはできず、
『人、時、所』によって
善悪は移り変わるからである。

たとえば
数学の授業中に、
生徒が勝手に歌をうたえば、
それは悪だが、

音楽の授業中に、
先生の指導のもと、
歌をうたえば、
それは善である。

あるいは街中で、
意味も無く人を殴れば、
それは紛れも無く『悪』だが、

しかしレイプされそうになった女性が、
相手をパンチで沈めるのは悪ではない。

また病気療養中の人が、
医師の指示に従って、
適量の薬を飲むことは
「悪」ではないが、

しかし健康な人が、
自暴自棄になって、
何十錠もの薬を大量に飲めば、
それは「悪」になる。

街中で意味もなく人を銃で撃てば、
それは「暴力」であり、
悪そのものだが、

しかし日本を防衛するために
已むに已まれず、
戦った侍たちのことを、
どうか思い出して欲しい。

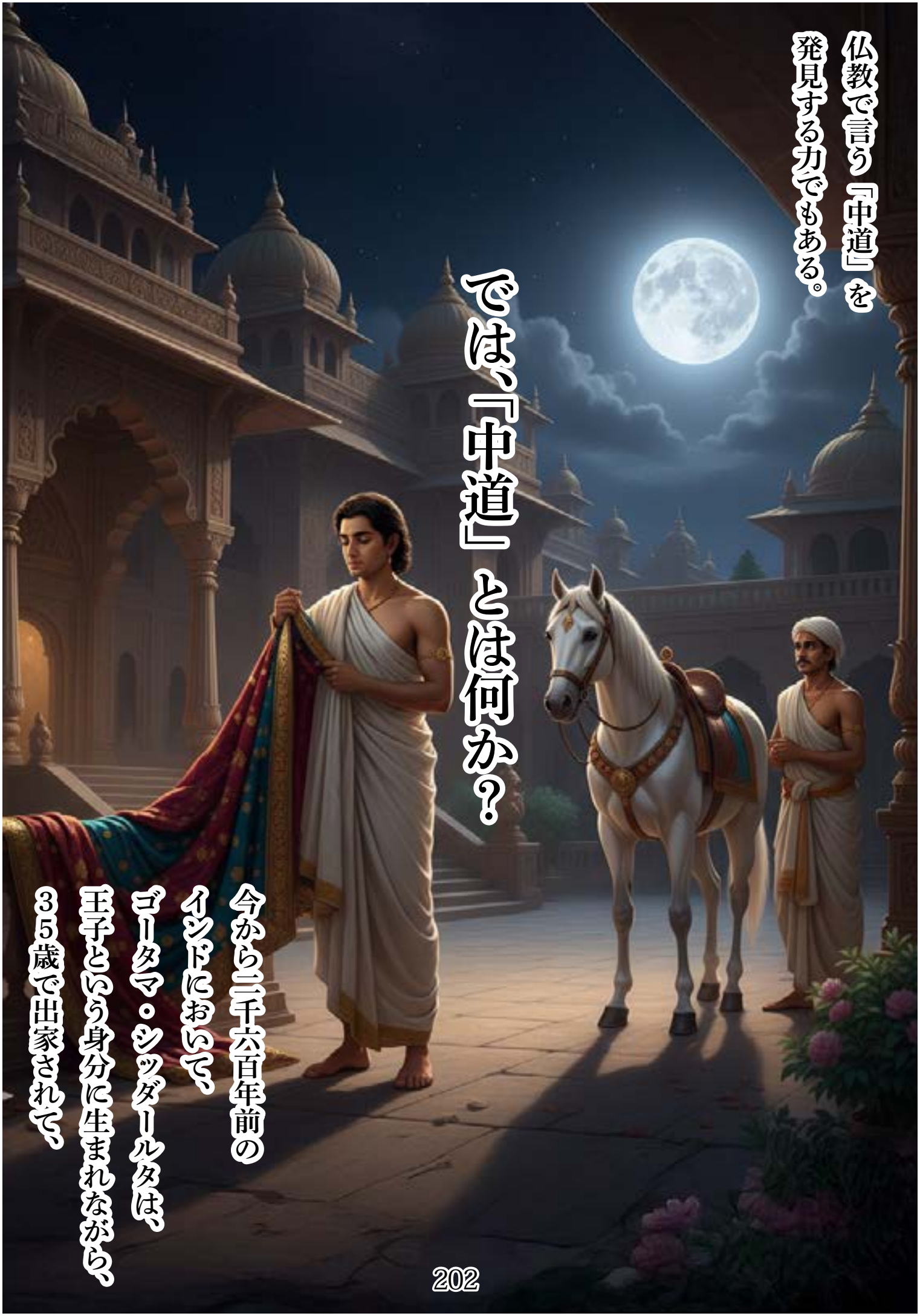
このように善悪というものは、
行為によって、
決まるものではないために、
「知識」だけでは見抜けない。

善悪を見抜く力、
正義がどこにあるのか見い出す力、
これを「智慧」と言う。

そしてもしも知識だけで、
正義を模索して議論したら、
意見の対立は永遠に終わらない。
109

『人、時、所』によって
移り変わる善悪を、
鋭く的確に見抜く力「智慧」は、
「悟り」という言葉にも、
呼び変えることもできる。

『悟り』こそ、
正義を見抜く力であり、



仏教で言う『中道』を
発見する力でもある。

では、『中道』とは何か？

今から二千六百年前の
インドにおいて、
ゴータマ・シッダールタは、
王子という身分に生まれながら、
３５歳で出家されて、

最初は当時の風習にならって、
難行苦行に明け暮れた。

断食なども行っていたため、
いつしか骨と皮だけとなり、
目は落ちくぼみ、
あばらは浮き出し、

いつ死んでもおかしくない、
そんな肉体になってしまった。

するとある時、
村娘の歌が聴こえてきた。

琵琶の弦は、
強く締めれば切れてしまう。
弱く締めれば音色が悪い。

琵琶の弦は、
中ほどに締めると音色がよい。
弦に合わせて、踊れや踊れ。
弦に合わせて、踊ろや踊ろ。

村娘はゴータマの姿を見ると、
駆け寄って、
ひと椀のミルク粥を差し出した。

苦行に明け暮れ、
生きることを否定している
ゴータマにとって、

自然のままに生きている
その村娘は天女のように見えた。

修行をすることが、
骸骨のような肉体となり、
生命を断ってしまうことなら、
生まれてきた意味がない。

食事を否定することは
真理に到る道ではない、
苦行の中に悟りはない。

こうしてゴータマは苦行を捨てた。

ゴータマ・シッダールタが瞑想していると、
悪魔たちは、

美しい女性の姿で現れ、誘惑し、
彼が悟ることを妨害しようとした。

しかしゴータマは悪魔を退け、
悟りを開かれ、仏陀と成られた。
極端に肉体を痛めつける
苦行の中にも、
極端に肉体を喜ばせる
快楽に中にも悟りの因はない。
真の人間の正しい生き方とは、
左右の両極端の生活を捨て、
日々、中道の暮らしなかに
真理を発見してゆく生き方である。
こうして二千六百年の仏教の歴史が始まった。

仏陀は心の教えを説かれ
多くの人々に
悟りの縁を与えられ、
「中道」を説かれた。

「歌をうたう」
という行為にも中道はある。

『人を殴る』、
という行為にも中道はある。

「薬を飲む」、
という行為にも中道はある。

すなわち
「外国から自国に人々を招き入れる」
という行為においても善悪はあり、

「移民にも中道がある」

ということだ。

海外の方々が、
きちんと法律に則って日本に来られて、
日本人と調和し、

日本の伝統文化を尊重しながら、
平和的に、創造的に、
自然に日本に溶け込んでいくならば、
その移民は「善」と言える。

しかし海外の者たちが、
法律を犯して日本に来て、
日本人と不調和を起こし、

日本の伝統文化を軽視し、
破壊的に、

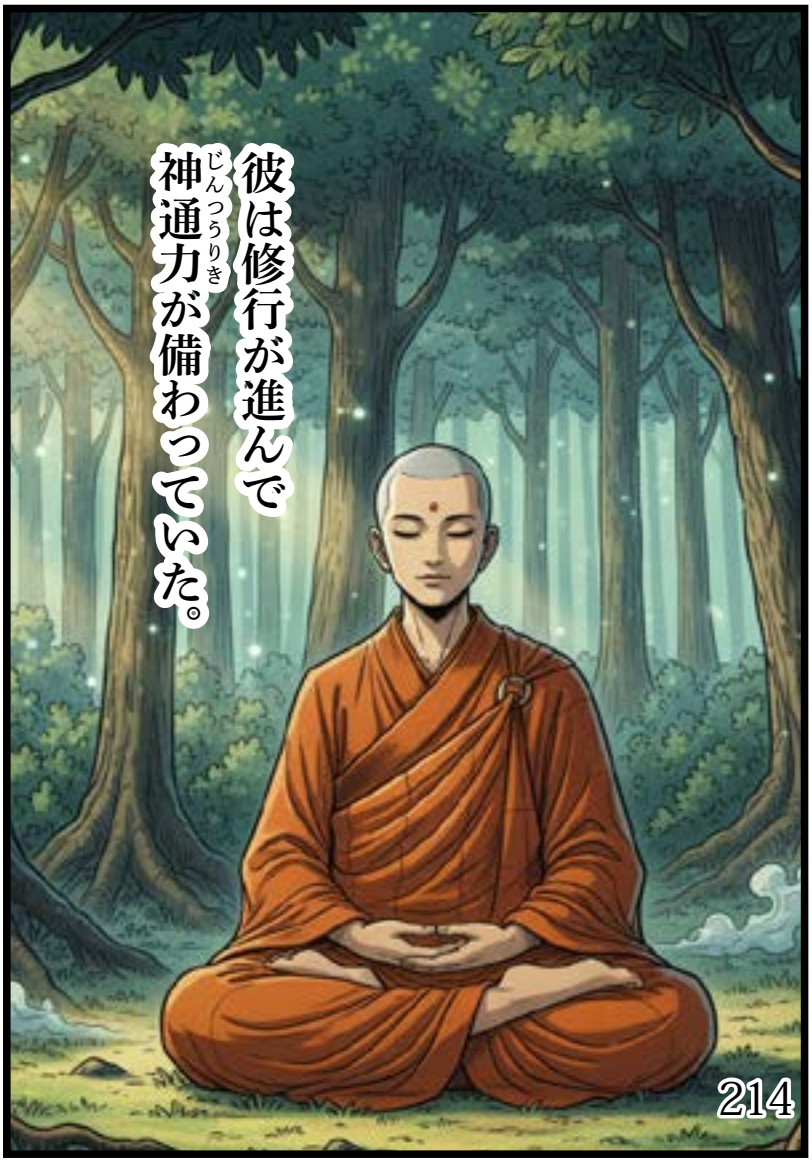
なおかつ侵略的に、
日本に入り込むならば、
その移民は「悪」と言える。

すなわち
「移民における中道」とは、
平和的に、創造的に溶け込むものであり、

「中道から逸脱した移民」とは、
破壊的に、侵略的に入り込むものである。

そしてそれと共に、
日本人は今、
「智慧」と「悟りの力」を、
忘れていると言えるだろう。

それはつまり、
知識があって頭が良くても、
それと「悟り」とは、
あまり関係ないということだ。



ついにあの世の世界も見通す天眼通を手に入れた。

亡き母にも私の悟りを伝えたかった…

大切に私を育ててくださった母。

母は死後、どんな世界に還っているだろう。

彼はそんなことを考えて、母親を霊界で探してみた。

あの優しい母のことだ。

菩薩の世界に還っているかもしれない！

しかし、
天国を探しても
母の姿は見当たらず、

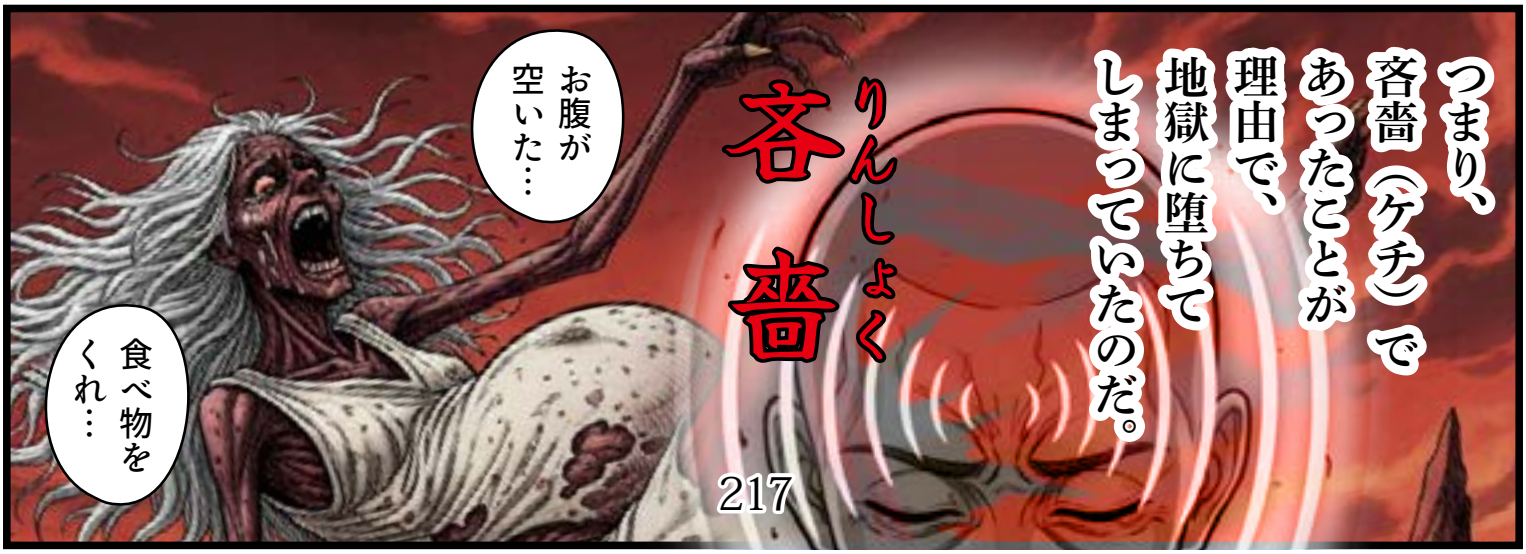
どこにも
いない…

もしや…

そう思って
地獄を探してみると、

目連の母親は、
餓鬼地獄にいた。

彼女は生前、
息子可愛さのあまり、
我が子のお腹を
いっぱいにするために、
たとえ食べ物が
たくさん余っていても、
他者への施しはしない、
そんな冷たい心を
持っていた。



母を憐れんだ目連は、
神通力で地獄に赴いて、
食事を与えるのだが、
母親に目連の姿は見えず、
食べ物は
燃えてしまったという。
私の
悟りでは、
自分の母すら
助けられない…

そこで目連は、
このことを仏陀に相談した。

世尊よ、
母に救いは
ないのでしょうか？

目連よ、
お前の神通力
だけでは、
母は
救われまい。

私の悟りが
至らない
ばかりに…

母に代わって、お前が飲み物や食べ物を
尊い僧たちに布施しなさい。
お前が施しの功徳を積むことで、
地獄の母へも救いの光が届くだろう。
私が施しを…
世尊の仰せのままに。

仏陀に言われた通り、
目連が僧侶たちに布施をして、
供養を行ったところ、

なんだ？この温かい光は…

目連、お前がこの愚かな母に「施しの心」を教えてくれているのだね…

目連、ありがとう！

母親は
歓喜の舞を踊りながら、
天上界へと昇っていった。

実はここに、
盆踊りの起源がある。
日本人に馴染み深い
盆踊りは仏教儀式なのだ。

「我が子のために、
吝嗇になる」
この子を
守るのは
母の務め！
これはけっして法律を、
破っているわけではないので
犯罪とは言えない。

しかし目連の母親は、
地獄に堕ちた。
このように
「法律を超えた善悪」
というものが存在し、
その正義を見極めるのも、
やはり「悟り」である。
そしてこれは、
現代の日本の政治にも、
同じことが言える。

結局、息子可愛さのあまり、
「看板（自民党）」、
「地盤（選挙区）」、
「鞄（金）」を、
小泉進次郎に受け継がせた。

もしも小泉進次郎が、
徳ある偉大な政治家であれば、
国民は幸福に近づくが、

しかしもしも小泉進次郎が、
無能な政治家であれば、
日本人の暮らしは、
地獄の底へ叩き落されるために、

国民より
息子がかわいいさ〜

小泉純一郎は
目連の母親と同じく、
地獄に堕ちることだろう。

そして実際に、
目連の母のような、
吝嗇政治家が多すぎることが、
日本国民の不幸の原因なのだ。

それは結局、
政治家も、国民も、
日本人が「悟りの力」を
忘れていることを意味する。

その最たるものが、
「暴力」と「武力」の違いも、
分からなくなっている、
ということが挙げられる。

しかし「暴力反対！」とか、
「平和！平和！」と、
いくら声高に叫んだところで、
理想だけでは暴力は
無くならない。

反戦！平泣！
暴力をやめろ！
反戦！平泣！
NO NUKES

と、止まらない…

逃げろ〜！

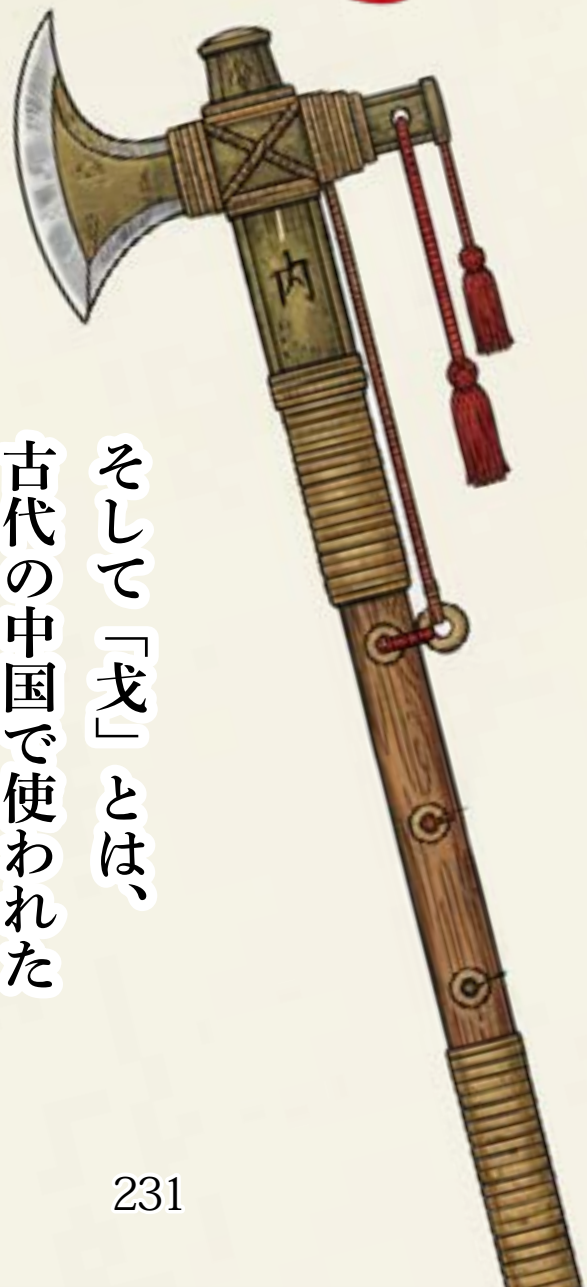
NO NUKES

話し合いで暴力が
なくなるなら、
北朝鮮の平壌で
叫んでみたらいい。
「暴力反対！
独裁政治はやめよ！」

中国の天安門広場で
叫んだらいい。
「武器は要らない！
平和が一番大切！」
必ず瞬殺される。

警察が暴力団に
敗れてはならないように、
あるいはアンパンマンが、
絶対にバイキンマンに
勝たなければならないように、
正しい者は
強くなければならない。

すなわち「武」という文字が、
「戈（ほこ）（矛）を止める」
と表記するように、



そして「戈」とは、
古代の中国で使われた
戦争の道具であるように、
「戈を止める」とはすなわち、
「暴力を止める」
ということに他ならない。

剣道の極意が
「活人剣」であるように、
武力とは、
暴力を抑え、平和を守り、
人を生かすための力である。

武道の一つである
合気道の達人に、
塩田剛三という方がいた。

「合気道界の不世出の天才」
と称される達人で、
小柄ながら、
実戦力と鍛錬の凄烈さで
今も伝説として語られる人物だ。

ある時、
弟子が塩田剛三に
たずねた。

合気道の極意とは、

先生、
合気道の極意とは何ですか？

自分を殺しに来た人間と、
友達になることである。

また塩田剛三の師であり、
合気道の開祖でもある
植芝盛平は、
こう述べている。

合気とは
愛気であり、

宇宙と
調和することが
大切である。

包丁が
人を殺める
道具にもなれば、
料理を作ることで
人を生かす
道具にもなるために、
包丁そのものは
価値中立である。

そして価値中立なのは
『力』も同じであって、

おい
お前たち、

そこで何を
している？

俺より
デカい…

「力」というものも、
「善である武力」
にもなれば、

あんま弱い者イジメするなよ。

「悪である暴力」
にもなるわけだ。

しかし戦後の日本は、
智慧が失われており、
そのために

包丁は悪！

力はすべて悪！

といった
バカな結論を
導き出してきた。

「自衛隊は暴力装置」、
「自衛隊は要らない」
などと述べる
大バカ者でも、
政治家や評論家に
なれる時代が
ずっと続いるのだ。

しかし残念ながら
世界は、未だに
核兵器を始めとする
軍事力に基づいて
動いてしまっている。

強者が弱者を
暴力でねじ伏せる、
悲しき世界である。

その現実を直視することなく、
「暴力も武力もすべて悪」
「破壊性や侵略性があろうが、
すべての移民政策は善」
という、
悟り無き結論を、
導き出していることが、
日本の問題点なのである。

莫迦（ばか）
これはお釈迦様の
説法を聴いても、
何も悟れない者のことを
意味するが、

たとえ東大を出て、
あふれる知識があっても、
残念ながら、
悟り無き莫迦はいるわけだ。

国は人生の土台である。

生まれ育つ国が違うと、
人生の根本部分、土台の部分、
これが違う。

ナイジェリアで
生まれ育つるか、

北朝鮮で生まれ育つか、

日本で生まれ育つかで、
人生の根本部分が違うことは明らかだ。

だから愛国心は大切である。

「日本を愛する」、
それは
「北海道から沖縄まで、
同時代に共に生きる日本人」
を愛していることにも等しいし、

それのみならず、
「日本を築き守って下さった
先祖の日本人、
これから日本に生まれて来られる
未来の日本人」を
愛していることにも等しい。

もちろん「間違った愛国心」
というものもある。
自国の利益しか考えず、
他の国や人々を蔑む
野蛮な愛国心だ。
しかし日本を愛した上で、
他の国々を敬い、
その国の人々を
一視同仁に愛することはできる。

日本が世界のリーダー国となり、
後進国に慈愛の心を持って接し、
貧しい国を豊かな国へと
繁栄に導くことは確かにできる。

しかし日本政府、
特に『自民党』が行ってきたことは、
国内にも、国外にも、
国民から集めた金を、
ただばらまいただけである。

これは日本の発展にも、
後進国の発展にも、
貢献しているとは言い難い。

目の前に飢えている人がいたら、
ただ魚を与えるのではなく、
釣り竿を与えて、
魚の釣り方を教えてあげること、
それが深い愛である。

この「導き（進化・成長）」を伴う、
「悟り」を含んだ愛のことを
「慈悲」と言う。

先進国は後進国に対して、
「慈悲」こそ手向けるべきなのだ。

その人の生まれた所とか、
皮膚や目の色で、
その人間のすべてを判断し、
そして蔑み、あざ笑う、
これは「差別」だ。

だが「差別」と「区別」は違う。
私には夢がある。
それは、いつの日か、
私の4人の幼い子どもたちが、
肌の色によってではなく、
人格そのものによって
評価される国に住む
という夢である。
なぜなら「差別」には愛がなく、
「区別」にはその前提に、
愛と正義があるからだ。

具体的に言えば、
日本の平和と安全、
そして日本人の生命と暮らしを守るために、
ビザに規制をかけることによって、
調和的で創造的な移民は、
溶け込むように自然に受け入れても、

破壊的で侵略的な移民は、
絶対に受け入れるべきではない。

しかし日本が
地球の一員として、
きちんと先進国の責任を持って、
後進国に対して、
魚の釣り方を教えるべく、
慈悲の心を手向けることは行う、
これが「区別」である。

今こそ日本人は、
武士道を復活させて、
かつての日本人なら
当たり前に持っていた
愛国心と平和を愛する心、
この二つの心を、
取り戻すべきなのだ。

1972年に共産主義の過激派によって、
死者は警官2名、民間人1名、
負傷者数26名を出す
「あさま山荘事件」
が起こった。

残念ながら日本では、
この「あさま山荘事件」以来、
「政治に関心を持つことはバカ」、
というレッテルが貼られるようになった。

しかし
「政治に関心を何も持たず、
腐敗した世襲政治を黙認し、

『移民政策』を無言で受け入れることこそ
莫迦な行為」と言えるだろう。

なぜなら、
女性が襲われていたら助ける、

たとえそれができなくても、
通報することくらいならばできる、
それが男であり、また人間だが、

しかしそういった
悲惨なことが起きる前に、
勇気をもって行動を起こし、
未然に防ぐことが、
正しい生き方だからだ。

「愛国心はカッコ悪いものではなく、
正しい愛国心を持って行動することこそ、
本当はカッコ良くて賢い生き方である」、

こうした正しい価値観を取り戻し、
一人一人が正義のヒーローにならなければ、
日本は確実に滅びるだろう。

すでに前回のエピソード7で、
「この世がすべて」
「死んだら終わり」
という唯物論に染まると、
執着に毒されて、
真の勇気は出てこず、

むしろ
「霊があり、あの世があり、
転生輪廻はある」
という霊的人生観を高め、
執着が取り除き、
悟りを得てこそ、
勇気はみなぎってくる、
ということを述べたが、

それは表現を変えれば、
「勇気というものは
悟りを得ることで湧いてくる」、
そのようにも言える。

実は「勇気」とか、
「正義」とか、
あるいは「慈悲」というものは、
「悟り」を前提にしているのだ。

しかしすでに述べたように、
仏教の中にも、
「無霊魂説」というものがあり、
霊やあの世を認めない
唯物的な仏教徒たちもいる。

それは結局、
多くの仏教徒たちが、
哀れにもマルクス主義に
敗れ去って、
悟りを見失っていることを
意味している。

しかしそれは、
一部の仏教徒ちが、
悪魔に敗れたことを意味している。

なぜなら、
あの世や霊の存在を否定し、
さらに神や仏の存在を完全否定する
共産思想というのは、
実は悪魔教徒の思想に
共通しているからだ。

どうか思い出して欲しい。
ロベルト・ベルナルドの言葉を。

彼らは皆、
Luciferian（悪魔教徒）なんです。
そして彼らはこう言うんです。

宗教などおとぎ話だ。

神など存在しない、
そんなものは現実ではない。

そして彼らは、
非物質的なもの、
「Lucifer（悪魔）」
に従事するんです。

霊を否定し、神や仏を否定する
という共産思想は、
悪魔が喜ぶ思想である。

なぜなら悪魔たちは、
一人でも多くの人間が、
唯物論、無神論に近づくことを、
今か、今かと待ち望んでおり、

そして共産主義は、
人々から勇気を奪っていく
唯物論、無神論だからだ。

その悪魔的な共産系の教育を、
戦後の日本では行っているのである。

だからこそ我らは、
なんとしてでも、
マルクス共産主義に、
敗れることがあってはならない。

もうこの地球には、
日本がお手本にすべき国は、
どこにも存在しない。

むしろ日本こそ、
世界のお手本にならなければならず、
世界はそれを待っていることだろう。

『日本を真似さえすれば、
国家は平和になり、繁栄し、
地球に大調和が築かれていくのだ』
ということを、
私たち日本人は地球人として
世界人類に示す責任がある、
そのように言えるだろう。

それが悪魔に打ち勝つ上でも、
日本人の責任と言える。

おススメ動画

漫画寄付金のお願い

皆さまのお力が、この物語を次の章へと導きます。

作品を生み出すということは、時間と覚悟を注ぎ続ける営みです。
真実を描くための資料集め、制作環境――そのすべてを支える力が必要です。
皆さまのご支援が、物語の続きを創造する原動力となります。
政治の真実、武士道精神の目覚めを促す一歩のため、ご支援賜れれば幸いです。

ご寄付の使い道

本作品の制作における主な経費は
以下の通りです。

- 資料購入、漫画素材購入
- 制作環境維持費
  （ソフトウェア、
  各種 AI サブスクリプション、
  機材 等）
- 制作時間の確保
- その他、作品公開のための
  諸経費

❶クレジットカードでのご寄付

https://secure.telecomcredit.co.jp/inetcredit/secure/manual-order.pl?clientip=74164

❷PayPal でのご寄付

https://www.paypal.com/paypalme/bushidoyamato

❸銀行振り込みでのご寄付 下記口座へ、お振込みください 。

●ゆうちょ

記号 00280
番号 105770
名前 シャ）ブシドウ

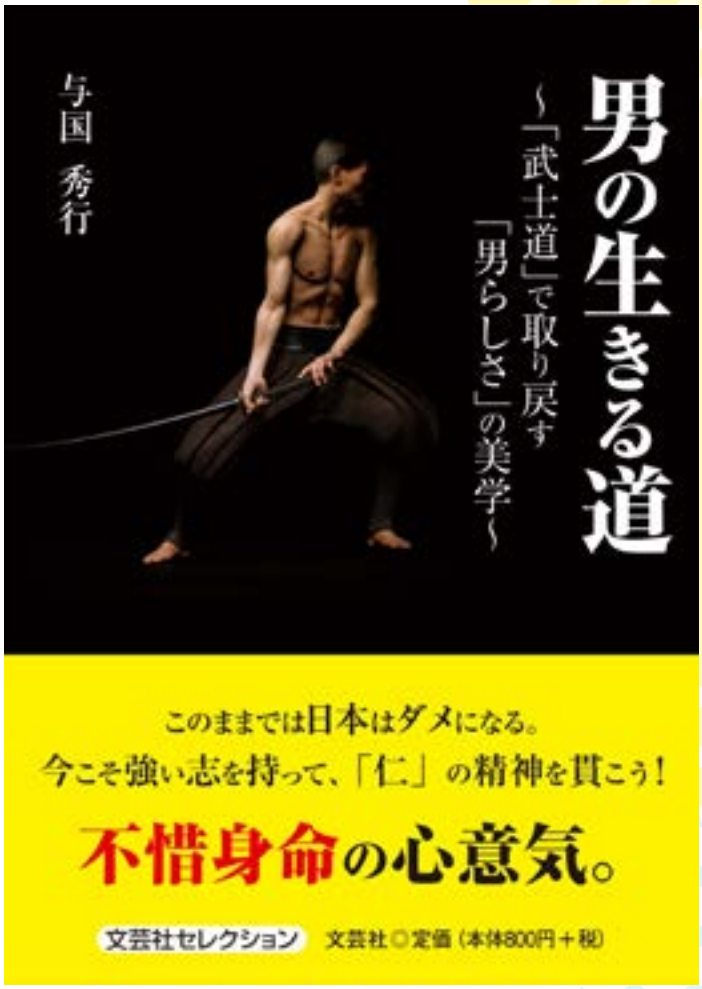
●ゆうちょ銀行

支店名 ゼロニキュウ 〇二九
口座番号 当座 0105770
口座名 シャ）ブシドウ

※ご寄付は任意です。100 円から、お気持ちだけでも十分に励みになります。
※いただいたご支援は制作継続のため大切に活用させていただきます。

Amazon で販売中！

電子書籍 1.500 円



文庫本 880 円

その他にも オーディオブック
『武士道を行く』→

←与国秀真作詞『BUSHIDO42』